

第1章 戦時下の学校と教師たち



バナー写真：アルバム『たたかふ児ら』より

〔麻原 康子さん提供〕



八日市国民学校のアルバム『たたかふ児ら』

八日市国民学校（現在の東近江市立八日市小学校）で戦時中に制作されたアルバムには、児童に戦争の状況を教える授業のほか、子どもたちによる『勤労奉仕』や『慰問活動』、『千人針』の募集活動など、軍国主義教育を行っていた当時の学校の様子が記録されています。



アルバム『たたかふ児ら』閲覧用の写真シート

戦争中の学校教育

昭和12年（1937年）、日中戦争を始めた日本は、本格的に戦争の泥沼に入り込みました。当時、学校現場では兵士としての素地を男子生徒に学ばせる『学校教練』や、国民の義務として国家のために自分を犠牲にしてつくすことを教える『修身』の授業などが行われ、戦争の暗い影が及びつつありました。その一方で、その後に敵国語として排除されることも多かった英語の授業も普通に行われ、歴史（世界史）の授業では、アメリカや西洋の歴史も教えられるなど、子どもたちの将来を見据えたそれまでの教育も行われていました。

米国との戦争が間近に迫った昭和16年（1941年）、国民学校令によって、尋常小学校が戦争を押し進める教育を行う「国民学校」に変わりました。国民学校は軍国主義実現のため、子どもたちを国にすべてをささげる国民として育成することを教育目的とするものでした。そうした教育は国民学校だけでなく、中学から大学までのすべての学校で押し進められました。教師たちも授業で、子どもたちに戦争を行う意義や、国のために命を捧げる精神を教育するよう、強く求められました。

そうした授業も戦況の悪化とともに、軍事教練や軍需工場などへの勤労働員（勤労奉仕）に取って代わられました。その結果、教師たちは子どもたちを引率して軍需工場などで働くこととなりました。

戦争のころの学校と子どもたち



国民学校の授業（滋賀県師範学校生による教育実習）

〔個人提供〕



国民学校児童による戦傷病者への慰問
(アルバム『たたかふ児ら』より)



疎開児童を迎える地域の子どもたち (高島市海津地区)
〔由上 龍男さん提供〕



八日市中学校の運動会 (種目は「国防競技」)
〔吉田 亀治郎さん 提供〕



県立木之本高等女学校の料理の授業〔武田 一夫さん提供〕



滋賀県師範学校生による近江神宮での勤労奉仕
(昭和16年撮影) 〔個人提供〕



運動会 〔個人提供〕



滋賀県師範学校 庭球部 〔個人提供〕

平 和子先生の授業 その1



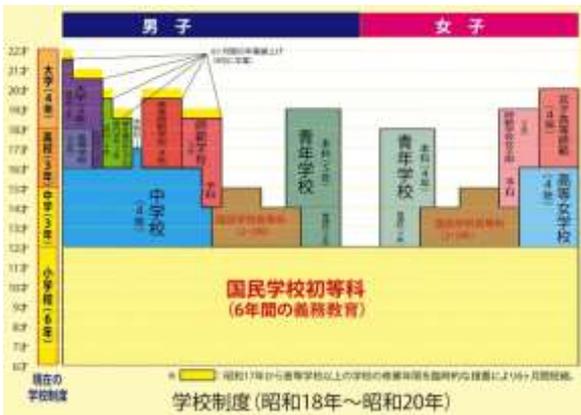
校など)が指導しました。子どもたちは、学校の授業の一環で、射撃や手りゅう弾の投げ方、部隊行動の練習、軍事教育など、軍人としての基礎が軍隊式の厳しい訓練によって叩き込まれたのです。



パナー写真：学校での教練 (軍事訓練)

栗太農学校での教練の様子 [上村 清子さん提供]

展示資料：青年学校制服 上衣、ズボン、ゲートル、靴、木銃、教育勅語 謄本



戦地へ学校での軍事訓練【学校教練】

戦争中の学校では、子どもたちが国のために尽くす優秀な兵士となるように、心と身体を鍛える軍事訓練 (学校教練) が行われました。学校での軍事訓練は、大正 14 年 (1925 年) に中等学校 (現在の中学校・高校に相当) 以上の公立学校で義務化され、昭和 16 年 (1941 年) 以降には、国民学校 (現在の小学校・中学校低学年に相当) でも行われました。

こうした訓練は、陸軍や在郷軍人会 (地域ごとに退役した軍人を組織した団体) の派遣した軍人 (将

学校教練関係資料

- 十七年式防空用防毒面、訓練用手榴弾、
- 『青年学校教練科教科書 全』、教練検定合格証明書



饗庭野陸軍演習場の中学校連合演習に参加した虎姫中学校 5 年生たち（現在の虎姫高校 2 年生に相当）松本部隊の名前は松本校長からとったものだそうです。〔個人提供〕



『青年学校教練科教科書 全』の内容〔清水 竹治郎さん提供〕



木之本高等女学校での学校教練の様子〔武田 一夫さん提供〕

【体験談一『横暴』一軍事教練と配属将校一】

Z さん（近江八幡市）
戦時中、武佐青年学校（近江八幡市にあった学校）の教師をされていた Z さんが見た学校での教練（軍事訓練）の様子です。

戦争の終わり頃の青年学校は、（授業が）1 週間のうちで 3 日ほど午前中だけやったんや。あとは食糧

増産とって、生徒は自分の家の仕事やお隣の手伝いやとか、在所の奉仕活動してましたわ。私ら先生も村の奉仕に行ったりしとった。

（学校の授業は、）歴史とかの社会科や簡単な農業に参考になる理数科（算数や理科、自然の観察）、文学書なんかを教える国語などでしたわ。（生徒のほとんどが）農家やから、農業の現地指導も気張ってやってた。それで、教練ゆうやつがあったんや。在所（地区）ごとに在郷軍人の中から推薦された教練指導員が決められとって、いくつかの村の教練指導員を指導する配属将校ゆうのが月に 2 回ぐらい、訓練してるときに廻って来よるわけや。ほと、その時は緊張せんならんかった。指導員が「ばりばり、ばりばり」張り切りよって、ひどいことがありましたんや。教練が厳しいてね。ほらもう、生徒をあごが外れるほどに殴り倒しよった。私ら先生は、ほんな事してもらおうと困るわな。生徒がもしも、怪我して耳が聞こえんようになったら、歯でも折れたらと思っで、ひやひやしてましたわ。

別の日には、配属将校がだーいと（生徒を）並ばしたんやけど、その時、生徒の 1 人が金の指輪しとったんや。「あれなんじゃ。切らせ。」ゆいよったんや。指導員が指輪を「ぶちーん」と切りよって、配属将校へ持って行きよったら、配属将校がポケットに入れて、持って帰りよったこともありましたわ。

それで、訓練が厳しいと来よらへん子がいたんや。ほと、先生が苦勞せんならん。指導員が先生攻めよるねん。私らは「頼むで来てくれ。昼飯ぐらいわしが持ってくるがな。」て、食糧難やけど、（子どもたちの分の）握り飯持って行かんならん。やっぱり、それにつられて来てくれよったけど。

【体験談一『理不尽』一校長先生一】

園田 芳邦さん（大津市）

昭和 19 年（1944 年）、神戸市の六甲中学（現在の六甲学院中学校）1 年生（現在の中学 1 年生）だった園田芳邦さんが見た校長先生の姿です。

当時は軍国主義で校長が厳しかったんです。学校は山の上にあったんですがある日、学校から降りてくる途中に、校長が荷物持って坂を上がって来たんですわ。あいさつしたら「後ろへ付け」って、校長

にいわれたんです。自分の荷物を持っていたんで、(校長に荷物を)「持ちましょう」と言わなかったことに腹を立てたんだと思います。

校長は学校から下りてくる生徒、全部後ろへ付けて学校に着くと、「わしが『良し』言うまで裸になって走れ」でした。ところが校長は『良し』なんて言わへんです。山の上やから早う暮れるでしょ。6時頃かな、真っ暗になって、副校長が(勝手に生徒を返したら)自分も怒られるから、連絡を取るんやけん「どこに行ったか分からへん」と。校長、どこ行ったか、おらへんです。当時はそんなんでしたわ。

一方、配属将校の教練は…

学校にも配属将校がいたんですけど、(ある意味)その訓練がすごかったんですよ。授業(軍事教練)の前にね、配属将校から必ず呼び出しを受けました。「今日は授業を(おまえらに)まかすから、校長に見つかるなよ」って。

運動場にいる間はね、大きな声でね、暴力的にやってくるように(校長に)見せてました。そんで、号令を受けて、校門を出るんです。外へ出たらもう見えへんし、池のどこまで校長に見さして、それで解散。見つかるなよ」って。そんなんばっかりやっていた。



戦争中の子どもたちのノート・絵日記

ノート「英語」「肉弾三勇士」「歴史2」「修身帳」、絵日記

戦争中の子どもたちのノート・絵日記

アジア・太平洋戦争の開戦が近づくまで学校現場では、戦争は比較的、遠い存在でした。昭和14年(1939年)以前に中学校で学んでいた田中壽一さんや高橋亮一さんのノートからも、英語や西洋の歴史の授業が普通に行われていたことが分かります。彦根中学3年生(現在の県立彦根東高校・中学3年生に相当)だった田中壽一さんの英語のノートには、当時も人気者だったミッキーマウスのシールが貼ってありますね。

その一方で、田中さんの自由帳の表紙には、自らの身を犠牲にして作戦を成功させた3人の兵士(『肉弾三勇士』)が現代のアイドルスターのように描かれており、戦争への暗い影が忍び寄っていたことも分かります。

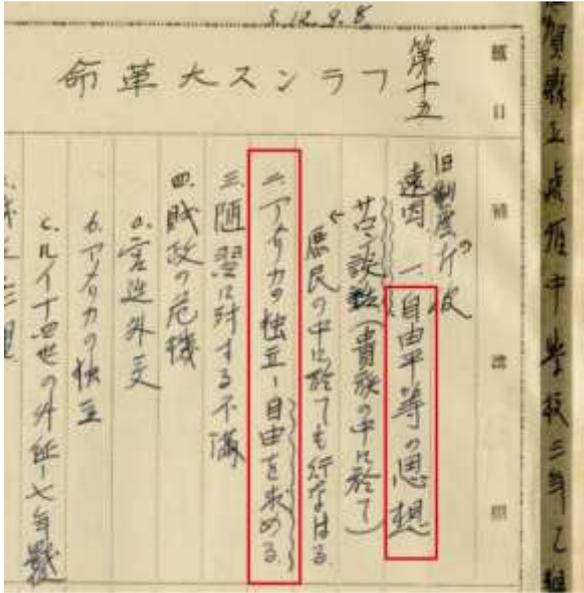
アジア・太平洋戦争が始まると、学校や子どもたちにも戦争が身近なものとなります。昭和18年(1943年)9月29日に城西国民学校2年生(現在の彦根市立城西小学校、2年生に相当)だった上野欽一さんが書いた絵日記には、全滅したアッツ島兵士の慰霊の日のことが描かれており、子どもたちにとって『大人になると戦争に行く』ことが、当たり前になっていたのです。



英語のノートに貼られたシール



上野欽一さんの絵日記の文章



高橋 亮一さんの歴史のノート [高橋 正さん提供]

【体験談一志願理由は教師からの強いプレッシャー—】

福井 弘一さん (野洲市)

昭和18年(1943年)、祇王国民学校(現在の野洲市立祇王小学校)高等科2年生(現在の中学2年生のころ)だった福井弘一さんが、海軍の舞鶴海兵団「特年兵」に志願した訳は…

私が13歳のときでした。朝礼で校長先生から「日本軍は今、戦争で大変苦戦をしている」というお話をされた後、教室で担任の先生から「戦争は大変な時期に直面している。海軍に志願する者はいないか?」と言われたんです。でも、誰一人手を上げる者はおりませんでした。すると、先生は声を張り上げ「お前らは自己主義や、日本の国がどうなろうとも、自分さえ良ければよいのか?」というようなことを云われて、ひどく怒られました。その先生は怖い神経質な先生で、生徒をよく立たしたり、ひねり餅や、チョークを飛ばしていたんです。さらに、「志願する者はいないのか?」と言われ、先生も怖いし、私を含め気の弱い7人の生徒が、恐る恐る手を上げました。

親も怖い親で、志願したことを言いましたら、反対もしないで志願書に黙って印鑑を押してくれました。あの時代は「一家の誰かが兵隊に行っていなかったら恥ずかしい」という時代だったので、親も仕方なく押してくれたのだと思いますね。



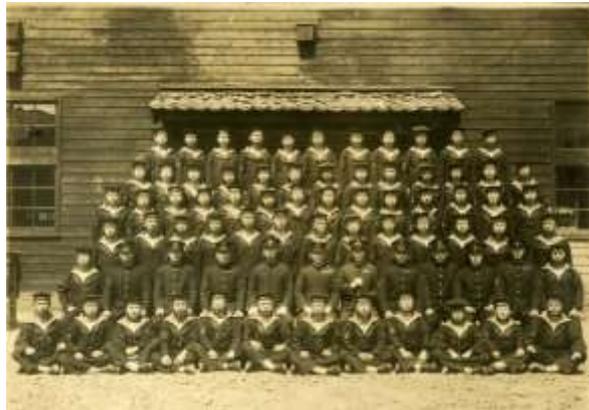
海軍志願兵の合格通知をもつ14歳の福井弘一さん

[福井 弘一さん提供]



海軍志願兵の合格通知

[福井 弘一さん提供]



舞鶴海兵団に入隊した新兵たち (昭和19年5月末頃)

[福井 弘一さん提供]



ほくはもっと勉強したかったんだけど、校長や軍事教練の先生が志願兵の願書を出すよう迫ってきたんだ～。どうしよう！合格しちゃったよ。軍隊でもこわい先輩いるかな？学校へ戻りたいよ～

【体験談一『怒り』一教師たちへー】

Tさん（東近江市）

昭和19年（1944年）、八日市中学3年生（現在の中学3年生）だったTさんが見た教師たちの姿です。

当時、八日市中学には非常に軍に迎合する教師が進学主任ややってましてね。予科練（海軍飛行予科練習生）へ（生徒が）たくさん行ったら（自分の）成績が上がるから、もうむちゃくちゃ志願しましたんです。

（予科練は）一応、志願制やから、「嫌や」言うたらこらえてもらえるはずやけど、受け持ちの先生通じて「おまえも行かんか」ということで、大量に予科練へ志願させられたんです。3年生は150人いて3クラスあったんですけど、50人くらいが予科練へ志願させられて、3年生の終わりのときには、2クラスに減ってしまいました。

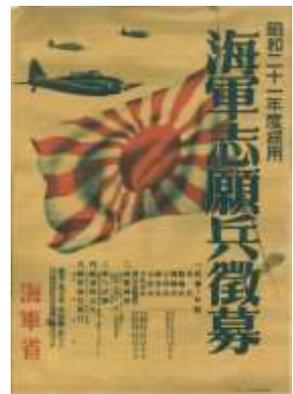
Tさんたちは学徒動員として、学校から伊庭内湖の干拓工事へ働きに行くことを強いられました。

12月中頃、（動員中の待遇のことで）「臨時保護者を開くで、八日市中学の講堂へ集まれ」という通知が来たんです。参加した母親によると「保護者みんなが殺気立ってた」そうです。「何か悪くなったら頭冷やせ。足はあつためよという『頭寒足熱』ということは聞くけども、息子らの毎日の暮らしは『頭寒足寒』や。頭も寒けりや足も寒い。どうなっとなや」と、戦争中やったけど、さすがに親たちもたまりかねてたんでしょね。それで、母に「先生の対応どうやった？」て、聞いたたら、「先生、ほとんど弁明がでけなんだ」言うてましたわ。

でもその直後に（友人が）亡くなってるんや。1月か2月に（友人は）急に高熱が出て、顔がボンボンに腫れて、2～3日、寄宿舎で苦しんでたんです。それも「帰らしてくれ」いうのに、（引率の）先生が

すぐに許可を与えなんだんでね。だんだん悪うなつて、もう帰る日には自力で帰れんから、在所（地区）の人に肩からおぶさるようにして帰って行きました。ほつたら、お医者さんに「手遅れじゃ。何でこんななるまでほつといたんや」と言われたそうです。ほんでもう、2日かそこらで直ぐに、友人は亡くなりました。職場で寝させても、なかなか家へ帰らそうとしなかったのは、非常にむごい話やったと思いますね。それで、（学徒動員が終わった）昭和20年（1945年）9月に「もう体が悪いさかい（学校に）来れん」という（生徒）が他にも2～3人おりました。

軍による志願兵募集のポスター



右：『昭和21年度採用 海軍志願兵徴募 海軍省』

左：『陸軍少年兵募集』

〔個人提供〕



海軍志願兵 受験案内のチラシ

「海軍志願兵の葉」（昭和19年度）

【体験談一『後輩は絶対服従』一教師の卵たち一】

Oさん（守山市）

昭和19年（1944年）3月、滋賀師範学校附属国民学校を優秀な成績で卒業されたOさんは推薦を受け、（現在の中学3年生4月に）教師を目指して滋

賀師範学校（現在の滋賀大学教育学部）に入学しました。

ひどい時代やったんや。勉強したんは1学期だけ。2学期になったらもう開墾と軍事教練。膳所から石山の国分まで、鋤担いで開墾作業。学校が食糧を作るために借りた荒地地にイモとか植えてました。それが無い時は木銃で「突撃一つ。伏せ一つ」て、軍事教練でした。

入学して1年間は全寮制で地獄でしたね。(当時は学校も) 軍隊と一緒に。1つ学年が上やったらもう絶対服従。「おい、1年さん。飯炊いてこい」、「おい、大橋、これちょっとしててくれ」て、皆、こき使うて当たり前やった。汚い汚い木造の校舎やったけど、磨いてピカピカにしとかなんだら、「並べーっ、何じゃこれは」って、「バシバーン」。毎日、上級生にビンタもろてましたね。その上、「おい、1年さん集まれ」て、招集がかかったら怖いですわ。上級生が柔道の習った手を試しよったり、殴りよるねん。

その後、動員で1年生と3年生（現在の高校2年生に相当）だけが堅田の住友金属工業へ行ったんや。学校やったらまだ教師もおったからましやけど、寮はまさに地獄やった…。



滋賀県女子師範学校 [田村 栄さん提供]



右上 点呼
左上 算での練習
左下 船宿屋での共同生活

滋賀県師範学校寮での生活

平和先生先生の授業 その2



アジア・太平洋戦争が始まった昭和16年（1941年）以降も、英語教育は禁止されてなかったのよ。でも、戦争が激しくなると敵国の言葉だから使っちゃだめだと、みんながいうからほとんどの学校では英語の授業がなくなったのよ。当時は、スポーツでも「アウト」や「ボール」など、英語の言葉が使えなかったのよ。

左側の展示ケースとパネルを見てね。アジア・太平洋戦争が始まるまでは、ふつうに英語の授業も西洋史の授業もありました。

【体験談一『信念』一師範学校の教師たち一】

Nさん（大津市）

戦時中、教師となったNさんには、師範学校の恩師たちの忘れがたい授業の思い出があります。

今でも一番印象に残っているのは、野木先生という英語の先生の授業です。その頃、英語は敵国語で「英語なんて勉強したらあかん。日本語の方が大事や」と、いっていた時代やったけど、それを承知で戦争のさなかに（イギリスの詩人アルフレッド・テニスンが書いた）『イノック・アーデン』という詩を英語で読んでくれはったんです。離ればなれとなった夫婦の悲しい愛の話を書いた詩でした。「英語は敵国語やけども、英語の中にはこういう良いものがあるんや」と、毅然として教えてくれはったから、悲しい話やけれど、非常に心打たれたものがありました。今でも頭の中に残っています。後からよく考えてみたら、戦争中に恋愛の話を英語で教えるなんて、気骨のある先生だったと思いますわ。

世界史の授業で藤原先生は「日本はもっと世界の事を勉強しておかないとあかん。日本の国はアメリカがどんなに大きな国かも知らずに戦いをしているけども、こんな事をしてたら負けるぞ」と、盛んにいってはった。世界史の藤原先生や英語の野木先生のように、師範学校の授業でちゃんとした物事を教えてはった先生もいました。

師範学校の先生方は、軍事教育の中でも毅然とした教育理念を持っておられたと思いますね。教師になる学校やから、(生徒たちに)正しい判断をつけておこうとされたと思います。

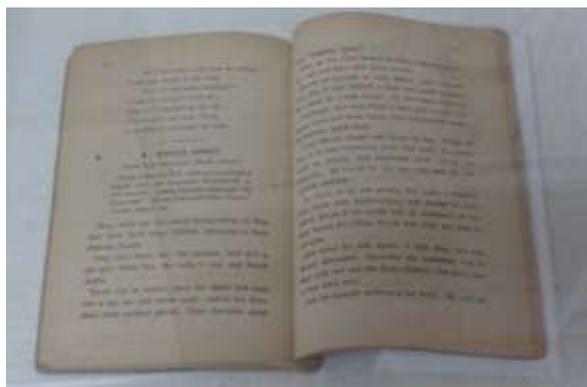
イノック・アーデン Enoch Arden(1864年出版)

イギリスの詩人アルフレッド・テニスン卿が夫婦の離別を描いた叙事詩です。

主人公イノック・アーデンは船の遭難により長い間、故郷に帰れません。彼がやっとのことで、故郷へ戻れた時には、妻が自分の友人と再婚し、幸せに暮らしていたのです。妻や子どもたちの幸せな暮らしを壊さないため、彼は自分が戻ってきたことを家族に告げず、別人として生き、死んでいきました。

この詩は、過酷な運命によって引き離された家族や、妻や子どもたちの幸せのため、別れを選んだ主人公の悲しい想いが書かれています。アジア・太平洋戦争では、部隊の全滅や輸送船の沈没などによって、多くの方々が消息不明となりました。また、家族のもとへ誤った戦死公報が届いた後に、復員された方もいます。戦争は、数えきれないほど多くの家族に悲しい別れをもたらしました。

戦後、始めて発行された本格的な中等学校の英語教科書(『THE WORLD THROUGH ENGLISH 1』、昭和22年(1947年)4月発行)には、この詩「イノック・アーデン」が載っています。当時、教師や子どもたちの中にも、夫や兄、父親たちが戦争から帰って来ない方々もいたことでしょう。授業でこの詩を知った方々は、どんな想いを持たれたのでしょうか。



戦後の英語教科書にのったイノック・アーデン

『THE WORLD THROUGH ENGLISH 1』

(昭和22年1月31日修正発行、中等学校教科書発行)

傷ついた兵士や戦争未亡人を教師に

長引く戦争の中、戦場で傷つき障害を負った人々(戦傷病者)や戦争によって夫を失った妻たちは収入を断たれて厳しい生活を強いられました。そうした人々の増加が戦争を続けていくことへの国民感情の悪化につながると考えた政府は、それらの人々を国民の模範となる『国のために戦い傷を負った勇士』や『戦死した夫の遺志を継いで国のために尽くす妻』として顕彰し、恩給の支給や職業相談、職業訓練所の設置など、生活保障・生活再建の政策を打ち出しました。

昭和14年(1939年)に開設された戦傷病者や戦争未亡人を対象とする教員養成所(傷痍軍人小学校教員養成所・戦没寡婦特設教員養成所)もその一つです。学校現場では男性教師たちが兵士として戦場へかり出され、慢性的な教師不足におちいるなか、政府は戦傷病者や戦争未亡人を教師として養成し、『国のために尽くし・捧げる』模範として、学校現場に送りました。



傷痍奉公杖、絵はがき「傷痍軍人白浜温泉療養所」(8点)、チラシ「国を護った傷兵護」など



戦傷病者へ贈られたモノ、戦傷病者関係資料

下賜された義眼・義肢の目録、軍人傷痕徽章、
恩賜の義眼、『闘ふ義手』



戦争で両腕と眼を失ったHさん（昭和19年1月23日撮影）

【体験談―戦傷病者の教師―】

Fさん（東近江市）

昭和13年（1938年）10月16日、Fさんが分隊長をされていた軽機関銃分隊は中国軍から迫撃砲による攻撃を受けました。

一発の迫撃の砲弾で、私の軽機関銃分隊は全滅しました。私は上半身や顔面に砲弾破片を受けましてね。右の眼がもう見えんようになりました。戦争には行ったけども怪我をして、再起不能。それで内地へ帰されました。

ほんまいうと、「なんとか原隊復帰を」と思ったんです。戦友が皆、戦死したり、怪我したりしてます

でね。私だけが内地還送というのは耐えられんなあという思いがありました。

約半年の治療の後、退院したFさんを待っていたのは…

「さあ、これからどうして生きるのか、仲間はみんな、戦争で苦勞してるのに、自分はもう、二度と戦場へ出されることはない。やっぱりそれらしい生き方をせないかんなあ」という気持ちがありました。たまたま、県から「小学校の教師をせんか」という誘いがあったんです。

当時は「戦争で男が戦場へ出ていくなか、次代を背負う子供の教育を女性の先生だけに頼っていくのはあんまり適当でない。教師の現場に男も必要や」という考えがあったんです。「傷痕軍人（戦傷病者）は野戦では間に合わんが、銃後の教育になら、まだ十分役に立つ」ということで、「京都の師範学校の中に傷痕軍人の小学校教員養成機関ができたから、そこへ、是非入ってほしい」ということやったんですわ。

私はその一期生として1年間、(先生となるために)促成栽培でしこまれました。(生徒は)みんなそれぞれ身体に難のある人ばかりでね。足が悪い、手が悪い。なかには、上膊部（上腕）で切断した腕のない人もいました。しかし、その人らでもね、跳箱とんだりね、あの、掃除になると、窓へ上がってガラス拭きしたりね。皆、誠心誠意、努めてはりました。

当時の国内の雰囲気はすべて戦時色でしたので、時代の花形みたいなもんでね。私が付属（小学校）で教生（教育実習生）で授業しとったら、新聞社から写真班が来て、あくる日の新聞に出とったこともありますわ。

小学校へ奉職は「どこでも希望の学校へ」というような感じでした。京都は「是非京都に残って、京都市内の学校で奉職してもらいたい」と希望されましたし、後から聞いた話では、近辺の小学校の校長先生たちが「うちへよこしてほしい」という希望を県へいっておられたようです。家庭の事情もあって、第1希望でお願いしていた八日市小学校にお世話になることになったんです。



八日市国民学校の戦争遺児に授業をするFさん
(アルバム『たたかふ児ら』より)



八日市国民学校の武勲室に参る児童たち
(アルバム『たたかふ児ら』より)

【体験談一『軍事援護教育』の先生一】

Fさん(東近江市)
傷痍軍人小学校教員養成所の第1期生だったFさんは、昭和15年(1940年)に八日市小学校(現在の東近江市立八日市小学校)に就職されました。

当時の小学校教育は、非常に軍事色が強くて戦争を抜きにした教育というのは、考えられない時代でした。男の子も女の子も「自分らも戦争を行っていく要員としての使命を果していかならんという自覚をもたせなさい」と、文部省も国全体もそんな感じでした。特に、八日市小学校は「子どもたちの親や兄弟がどんどん戦争に出征し、飛行場のある軍都八日市から戦場へ飛行機が飛び立って行く状況の中で、子供に戦場への関心を深め、育てていく教育をすべき」といった考えでしたので、文部省から『軍事援護教育』で学校の指定を受けたんです。ご主人

が結婚間なしに戦地へ行かれて、戦死された戦争未亡人の福田先生と私が指導を担当することになったんです。

私たちは軍事教育の拠点として校舎二階の一室に武勲室ゆうものをこしらえました。そこで新聞に載った戦死者の遺影を全部切り抜いて、ふすま7枚に張って部屋に立て、それを取り囲む玉垣と鳥居も作りました。「子どもたちに学校生活の中で国へのご奉公の気持ちを養いながら、意識させたい」と、いう思いでした。月に一遍程度、6人ほどの戦死者の遺児を寄せて「自分のお父さんに恥をかかすことのないように一日の暮し向きにしっかりした気持ちで取り組まないかん」と特別に指導するものでした。

【体験談一勤労働員で子どもを死なせて・・・一】

Fさん(東近江市)

八日市国民学校の教師をされていたFさんは、昭和19年(1944年)から約1年間、勤労働員の子どもたちを引率して、軍需工場で働く日々を過ごしました。

私も小学校の高等科の生徒(現在の中学1~2年生に相当)を学徒動員に連れて(学校の近くの)軍需工場の岡崎工場へ行ってきました。その頃は、月曜日から金曜日まで工場で働いて、土曜日だけ授業をしてました。

岡崎工場は軍需物資の木材の加工やアルミの板を飯ごうの蓋とか掛具とかを作る金工もありましたね。子供は純真です、怠けるということ知りません。ほんで、一日中でも根つめて、仕事をやりましたわ。子どもが安全に仕事をするのをずっと見て回るのが私の仕事でした。でもそこで、子どもが一人、作業中の事故で犠牲になったんです。

事故が起こる直前にも、私その現場へ行ってるんですわ。その子は、1トンぐらいのものがガチャンと落ちてくるプレスをね、足踏みで操作してたんです。足でペダル踏むと、それがガターンと落ちてくると、ペダルを踏まなければ下ってこんことを私も確かめて、子どもに操作させてたんです。別に何の危険も伴なわんと思うて、そこから離れて、次の現場へ行っと思ったんです。そしたら事故が起こったで

すわ。

私が直ぐに現場へ戻った時には、その子の手の指が2〜3本切れてなかったんです。プレスにかかって指が切れたんです。後でわかったことですが、プレスの機械がどこかが不安定で、何かの拍子にペダルを踏まんに、板が降りてくることがあったそうです。子供はほんなこと知りませんで、安心して、作業してた時に「カチャーン」。すぐに病院へ運んで、手当をしてもらいました。

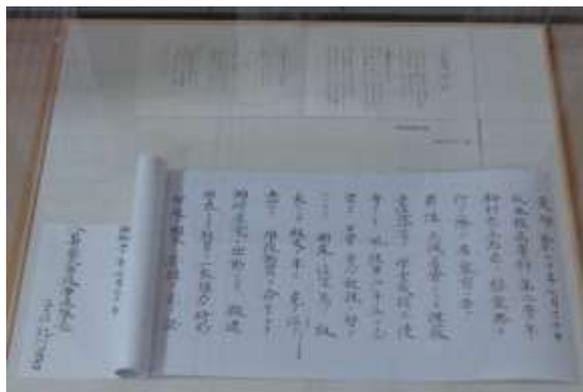
その子は、まじめな子で少年飛行兵になりたいという夢があったんです。病院でも「指を切断されても少年飛行兵になれるか」を何べんも確かめてました。「心配せんでもええ。大丈夫や。」言って慰めてたんです。私は責任感じて、毎日のように病院に寄せてもらいました。ところが、外傷がきっかけで、体調がくずれて膀胱炎になったんです。ケガより膀胱炎の方が重くなってその子は亡くなったんです。アメリカの艦載機が頭の上をブンブン飛んどった終戦間近（昭和20年（1945年）7月）でした。その子の葬式にも、敵機が頭の上をまいまいしてました…。



勤労働員中の事故で亡くなった松村忠五郎さん〔個人提供〕



八日市の岡崎工場で働く日野国民学校・西大路国民学校の児童たちの新聞記事切り抜き〔個人提供〕



上：岡崎製織場 場歌

下：勤労働員中の事故で亡くなった松村忠五郎さんへの八日市国民学校生徒隊長（学校長）からの弔辞（写し）

昭和20年7月30日、八日市国民学校生徒隊長から松村忠五郎さんへ

生徒とともに勤労働員

戦争が激しくなると、それまで農業や工場で働いていた男の人たちが大量に戦場へ送られたため、食べ物や兵器を作る働き手が不足しました。それを補うため、子どもたちが農地や軍需工場で働かされたのです。

戦争末期には国民学校高等科以上（現在の中学1年生以上）の生徒たちは満足な授業も受けられない中、食料増産や軍需工場で働くことを強いられました。教師たちは子どもたちの引率者として、いっしょに働くこととなりました。



軍需工場となった岡崎製織場

〔個人提供〕

【体験談—戦争未亡人の教員養成学校生—】

松崎 香苗さん（彦根市）

松崎香苗さんは大正 4 年（1915 年）生まれ。昭和 13 年（1938 年）に朝鮮総督府の役人だった松崎寿吉さんとご結婚されました。

昭和 19 年（1944 年）4 月 23 日、夫に赤紙が来ました。遺品のなかに出征中の日誌があったの。それを読むと、横須賀から 6 月頃に硫黄島に渡ってるんです。魚雷にやられて、みんな泳いで硫黄島に渡ったのだけど、硫黄島に着いたら真水がないのでお腹こわして。10 月に戦病死で亡くなりました。12 月に戦死公報が届いて、遺品と犬歯が 3 本入った小さい遺骨箱が帰って来ました。

両親は「家におったらいいよ」と言うんだけど、兄弟が帰ってきたら居づらくなるし。「5 歳の子供を抱えて、どうしょいなあ」と思ってね。その時分、軍が戦争未亡人に対して教員を養成するところを作ってくれたの。30 歳でしたけど教員になろうと、若い子に混じって京城女子師範学校に行ったの。師範学校は全寮制だったから、子供を親に預けて。卒業してから 14 年も経ってたから、全然忘れちゃって、他の人に追いつかなくちゃならないから、夜も寝てられなかったの。それに軍事訓練というのがあったのよ。銃を持ってね、匍匐前進しなきゃなんないのよ。いろんなことをやらされたわ。それでね、1 か月に 10 キロも痩せちゃったわ。内地のように食べ物がないというのではなかったけど、でも最後の方には、とうとう、食べるものがなくなって、学徒動員の歌に送られて、みんな親元に帰されたんです。『教育実習』という名目で、親のいるところの学校の先生に教生（教育実習生）として行くことになったの。私は朝鮮人学級の一年生を持たされてね。当時の朝鮮の教育は日本語で教えていたのよ。でも、一年生だと日本語をあまり知らないから大変だったわ。

終戦の後、8 月 19 日にソ連が攻めてくるので「もう、だめだから出よう」ということになってね。暑い日だったけれど、着られるだけ服を着て、当座のものをリュックに詰めて、軍用列車に乗せてもらって、10 月に主人の九州の実家に帰ったんです。まあ、離れを一問、あてがってはもらってたんだけど、歓迎されることはないし。そこで、途中になっていた

教員への勉強のため、未亡人が入れる熊本女子師範学校に入り直しました。子供も一緒に寮で暮らすことになったわ。その時の費用は軍隊からも、学校からももらわなかったなあ。結局は持って帰ったお金でなんとかしたんだと思うんだけど。それから、翌年に主人の出身小学校の先生になりました。



松崎香苗さんの戦死された夫 松崎寿吉さんの遺品

松崎寿吉さんから松崎香苗さんへのはがき

御守り袋・御守り『水天宮』・手帳・小物入れ・鏡



『写真週報』第 125 号（昭和 15 年 7 月 17 日、内閣情報部発行）

学校への空襲

昭和19年(1944年)11月以降、空襲が本格化し、日本が米軍機による無差別攻撃にさらされました。滋賀県でも昭和20年(1945年)5月14日から何度も空襲を受け、50人以上の方々が犠牲になりました。

県内では城南国民学校(現在の彦根市立城南小学校)や御園国民学校(東近江市立御園小学校)など4校の国民学校が空襲を受けています。また、学校からの下校途中や勤労働員で働きに行った軍需工場で空襲を受け、子どもたちも犠牲になりました。

【体験談—学校への空襲—】

水野道子さん(大津市)・小林幸子さん(守山市)
昭和20年(1945年)4月から城南国民学校(現在の彦根市立城南小学校)で教師をされていた水野道子さんは、その年の6月26日、学校で空襲に遭遇されました。

当日は、麦刈りの(勤労)奉仕で3年生以上の児童は運動場に集まっていました。ところが、午前10時頃に警戒警報が出されたんです。急いで児童たちを下校させたところ、琵琶湖の方向から沢山のB29の編隊がやってきました。そのうちの1機が機首を返しこちらに向かってきて、低空飛行をするときの低い音が聞こえました。私は、学徒動員に行った名古屋で何度も空襲を受けたことがあるので、「あ、これは爆撃がある」と直感しました。

二人の先生が校舎の屋根に登り、飛行機の編隊を眺めていましたので、校長先生と私が「早くおりろっ」と叫びました。二人の先生とともに防空壕に入ったとたん「ズシンズシン」と爆弾の落ちる音がして、あたりは猛烈な土煙、砂煙でした。

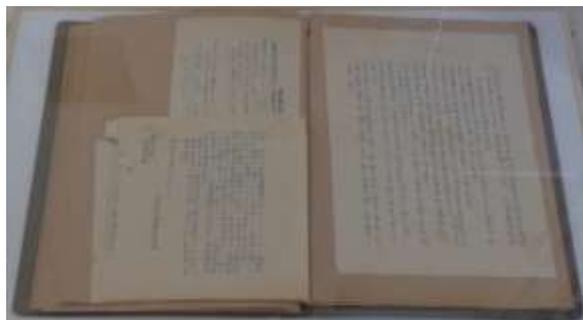
爆風で校舎の窓ガラスのほとんどが割れ、屋根瓦も吹っ飛びました。講堂や東校舎の壁には爆弾の破片が無数に突き刺さっていました。

爆弾は学校東側の田んぼに落ちて、深さ4~5mほどの大きな穴を作ったんです。今はその上に城南保育園の調理室が建っています。【水野道子さん】
戦時中、小林幸子さんが篠原国民学校(現在の野洲市立篠原小学校)の教師をされていた時の話です。

私は野洲駅と篠原駅の間の線路沿いにあった篠原

国民学校で先生してたの。子どもは、1年生教えてたけど、一組の先生がお産しはったから、二組いっしょに教えたの。昔は50人ぐらいで一組やったからね、90人ほどいるんやわ。空襲の時は子ども連れて逃げてましたけど、連れて逃げるのが怖かったの。校舎が線路の横やったし、学校はようわかる(空襲目標となる)さかい「ウー」て、警報がなると、その子ら連れて逃げていかんならんかったんです。ほんで、奥の方に大きなため池がありますねやわ。池は水が貯まるように堤が作ってあるさかい。堤の下に逃げて、そこに子どもらダースと並べて。怖かったね、あの戦争の時分は。

ほで、空襲の時は、奉安殿(天皇・皇后の写真と教育勅語を保管した場所)がありますやろ。そこに御真影(天皇・皇后の写真)があるんです。天皇陛下と皇后陛下の写真を、白い白いきれで巻いたんやわ。(先生が)それを抱えて、奉安殿のそばの防空壕へ逃げていくの。 【小林幸子さん】



「集団疎開児童物品託送制」について(『集団疎開関係書類編』より)

大阪の親元から疎開した大宝国民学校(大阪市)の児童へ品物を贈る場合の取り決めや注意事項を記した通知文です。書類によると、お菓子や食料品などの慰問品は学校でとりまとめ、毎月1回だけ、送られたようです。 【個人提供】

疎開児童の引率の先生

東京・大阪などの大都市の国民学校の教師たちは、戦況が悪化した昭和19年(1944年)、子どもたちを空襲から守るため、児童に付き添って疎開先に向かいました。滋賀県には、大阪市にあった52校の国民学校から約1万人以上の児童たちが疎開してきました。

先生たちは、疎開先で教室を借りて授業するだけでなく、お寺などに用意された寮で家族と離れて集団生活を強いられた子どもたちを守るために奔走しました。乏しい配給では足りない食料・燃料などの生活物資の確保や子どもの病気・ケガなどさまざまなトラブルの対応に苦労しました。

【体験談—疎開児童引率の苦労—】

由上 龍男さん（大阪府）

昭和19年（1944年）9月、菅南国民学校（現在の大阪市立西天満小学校）の教師をされていた由上龍男さん（当時25歳）は、学童疎開をされた4・5年生の女子児童120人とともに海津村（高島市海津町）へ移り住みました。

疎開した海津村では、（疎開児童と）現地の人たちとのトラブルはなかったです。仲良く暮らしてましたよ。菅南国民学校の疎開で一番幸せやったのは、食料が潤沢にもらえてたことです。これは村長さんのお陰です。配慮してくれたおかげで、お米をたくさん出して頂けたり、余所では夜だけがご飯というところが多かったんですけど、海津ではお粥さんは朝だけしか覚えはございません。ほかは白いちゃんとしたご飯で、どんぶりに二杯まで食べれました。それでも、もちろん、さつまいもの茎を皮をむいて、ご飯の中に入れてたり、食料を増やすために苦労しましたが、余所さんに比べたら私たちは幸せだったと思います。

生徒は正月も盆も帰れませんでしたので、お母さんたちが月に一遍ぐらい面会におこしになりました。せやけど、その面会が大変でした。そらあ、もう、わが子がかわいさかいに、戦時中ですが、あれこれ苦労して食べ物をドッサリ持って来られる。子どもは珍しいもんやから、いっぱい食べる。面会の後は必ず子どもはゲリです。そしたら、後はビオフェルミンとか、胃腸薬を飲まんならん。子どもにしたら、おやつの不自由が一番つらかったらと思うます。

そして、昭和19年の冬は豪雪でちょうど海津国民学校の運動場の積雪が私の身長と同じぐらい雪が積もりましてね。子どもにしたら嬉しかったんですが、雪が思いのほか降ったさかいに野菜の蓄えがなくな

ってしもたんです。せやけど、子どもたちは食べんわけに行きません。地元の人が「家の畑に行きなさい、畑に大根や、かぶらやがありますから、生徒さんのためやったらなんぼでも取って下さい」て、好意を寄せて頂いたけど、取りに行くのはこっちですわ、私の寮は男手一人やから。私が一人で（全員の分の野菜を見つけるために）畑の雪を掘らんなあきませんわな。これは忘れられん体験でしたね。でも、それよりも屋根の雪どけが大変でした。雪が積もると重みが掛かって、建具が動かんのですわ。屋根雪を落とさんならん。そして、寮の裏側が道なんで、落とした雪をそのままにしてたら余所さんの迷惑になる。道から雪よけをせんならん。それに一番苦労しました。これで私、帰ってから病気になりました。



開墾して畑を作る菅南国民学校の疎開児童と先生

〔由上 龍男さん提供〕



菅南国民学校の疎開児童と先生・お母さんたち（寮の裏側の道で昭和19年3月29日撮影）

〔由上 龍男さん提供〕

濟州島からの集団学童疎開

日本本土への米軍の上陸攻撃が現実味を帯びてきた昭和19年(1944年)以降、日本軍は米軍との戦場とするため、沖縄や濟州島、樺太などの島々に多くの部隊を送りました。戦場となる島々では、国民学校の児童たちを輸送船で日本本土などに疎開させました。当時、濟州島(現在の韓国濟州特別自治道)では約23万人もの日本人が暮らしていましたが、日本軍は島を戦場とするため、7万人以上の兵員を送り込みました。

昭和20年(1945年)6月7日、戦場となる島から濟州南公立国民学校の児童14人と付き添いの家族を疎開させることが決まりました。疎開には、引率の平川セツ先生(24歳)の負担を軽減するため、補助として小松虎兎丸校長の妻の美代さんが2人の娘(2年生の菟美子さん・5才の菟代子さん)を連れて同行することとなりました。

7月3日、濟州島から疎開児童ら約500人を乗せて、朝鮮半島の木浦へ向かっていた豊栄丸は機雷に触れて沈没し、小松虎兎丸さんの家族を含めて乗員・乗客のほとんどが亡くなりました。この学校関係の生存者は3人(児童2人・保護者1人)だけでした。

こうした疎開船は、沖縄県からの疎開児童を乗せた対馬丸など6隻以上が沈められ、多くの子どもたちや先生が犠牲となりました。



疎開船『豊栄丸』の遭難位置(「朝鮮里程全図」(昭和15年8月、十字屋出版部発行)に加筆)

【体験談—濟州島からの疎開船が遭難—】

小松 英郎さん(大津市)

小松英郎さんの家族は、小学校教師をされていた父

親の小松虎兎丸さんが朝鮮の学校へ移られたため、大津市から朝鮮半島へ渡りました。

昭和20年(1945年)1月末に、親父が濟州南公立国民学校の校長に任ぜられて、木浦(現在の韓国全羅南道木浦市)から濟州島(現在の韓国濟州特別自治道)へ転勤したんです。当時、木浦中学校に通っていた僕は、島に中学校がなかったので木浦に残りましたが、母親(美代さん)と妹たち(菟美子さん・国民学校初等科2年生、菟代子さん・当時5歳)は、3月の始めに島に移ったんです。

僕が通っていた中学校は、男子だけの学校でね。一学年100人ぐらいで、日本人と朝鮮人が半々いました。僕は飛行場の建設の動員が終わった4月に、いっぺんだけ濟州島へ行ったんです。その後は私の乗った晃和丸という船が米軍の機銃掃射と爆撃で沈められて、それから家族とは音信不通の状態やった。

(当時は)沖縄の次に濟州島へ(米軍が上陸して)来ると考えられとったから、父の働く国民学校でも疎開させる準備をしてたんです。学校は日本人だけの小さな学校で、男の先生が兵隊にとられて、教師が女の先生2人と校長の親父だけでした。父が(疎開の引率を)年配の女の先生に頼んだら、「私辞めさせてもらおう」といわれたそうです。だから仕方なしに、若い平川先生が疎開に同行することになったんやけど、平川先生は心細かったのでしょうね。上の妹が疎開することになっていたこともあって、母親は先生の助けになると思って、下の妹もつれて疎開することにしたんだと思います。

小松さんの家族も乗船した豊栄丸は、7月1日夜に濟州島から出航しましたが、3日午後11時頃に消息を絶ちました。次の日の朝、小松英郎さんは中学校で驚くべき話を告げられました。

朝鮮人の同級生が「お前の親が乗っていた船が沈んだんやないか」っていうんですよ。どうして情報を手に入れたか分からんけどね。彼はそういう情報が早かったんです。それで、びっくりしてね。港へ行ってみたり、親戚のところやいろいろと尋ね歩いたけども、豊栄丸の遭難事件は秘密にされていたから、なにも分からなかったんです。

その後、4~5日経ってから陸軍病院から呼び出されたんです。呼び出したのは重症の陸軍中尉でした。

「船の中でお前の母親からお前のことを聞いていた。だからこうやって呼んだんだ」と言われ、「今まで(母親や妹たちが)どこかで助かったという情報は入っているか」と聞かれたんです。「いや、ありません」といったら、その中尉は「諦めよ」といわはったんや。



疎開船で亡くなった平川セツ先生(後列右端)と小松校長の家族(妻の美代さん〔後列左端〕と菟美子さん〔前列右側〕・菟代子さん〔前列左側〕) [小松 英郎さん提供]



濟州南公立国民学校の子どもたち(1年生・2年生)と平川セツ先生(写真左端)(昭和20年4月1日撮影)

[小松 英郎さん提供]



小松虎菟丸先生の日記 [小松 英郎さん提供]

昭和二十年 日記

所有者 小松 虎菟丸 勤務先 濟州南公立国民学校

6月30日(土)

愈々出発と決定したので朝から連絡を取り準備せしむ。午後4時乗船。本船まで見送り。6時半頃、帰宅独り夕食をして8時また出帆を見るつもりで出たが9時になり船が見えなくなり。三原君宅に寄り帰宅。木刀振り500回してねる。

7月1日(日)

5時起床、湯を沸かし握飯を食べた。(中略) 昨夜出帆しなかったときいて迎えに行き娘二人と連れだつて帰宅。2時頃食事を平川先生と共にす。5時再び船まで見送る。(後略)

淋しさに猫オテを相手にささやきぬ、戦勝たば皆帰りと

7月2日(月)

6時半起床。握り飯で朝、昼食はすませた。昨夜は出帆したとの事。海上の無事を祈る。(後略)

7月3日(火)

6時起床。全部で7人出席。農場へ行き甘藷、玉葱を収穫。殆ど盗まれていたので唾然とする。児童に配給す。到着通知、電報来たらす。稍々不安となる。

妻子三名落命 今夜11時疎開船遭難と後に判明

7月4日(水)

暁部隊へ行つたがまだ通知来ずと。昼ききにやつたが問合せ中だと。夕食後、齊藤一等兵来る。夕食させて、暁部隊へ行つたがまだわからずと。郵便局長に電話で問合せ、機雷で遭難の電報ありしと。駐在官よりも姫主任使にて遭難の通知あり。

工藤視学、相沢〇川、波上校長、村長来宅、10時半まで話す。海南花山面沖で機雷にふれ沈没。(3日夜10時頃) 百名余り救助さるとのみ判明。

7月5日(木)

天も泣いて呉れるか。朝から雨模様。雨パラパラと降る。相沢校長来宅、島庁へ行つたがまだ詳報来らず。夕食前、坂本郵便局長より招かれて至る。福留氏も共に家族遭難なれば、色々きかされて泣かせられた。自分からも泣いた。夜に入り

て雨は本格的となる。詳細は遂に至らず。皆はあきらめを余儀なくさせられる。

疎開船『豊栄丸』のゆくえ

濟州南公立国民学校の校長先生をされていた小松虎兎丸さんの日記には、疎開船が行方不明となった当時の状況が書かれています。(日記の一部を現代の言葉に直して紹介します。)

昭和20年(1945年)6月30日(土)

いよいよ疎開船が発航することが決定したので、朝から関係者に連絡し、準備させた。午後4時から疎開児童たちが豊栄丸に乗るまで見送った。6時半ころ、家に戻って一人だけで夕食。もう一度、出港する船の様子を見に行き、9時ころに船が見えなくなるまで見送り。家で木刀の素振りを500回してから寝た。

7月1日(日)

昨日の晩は船が発航しなかった(戻ってきた)と聞いたので、妻たちを迎えに行きみんなで家に帰った。2時ころに疎開に同行する平川先生といっしょに昼食を食べた。5時ころ、ふたたび疎開船まで送り、出航する船を見送った。

淋しさに猫オテを相手にささやきぬ、戦勝たば皆帰りくと

(短歌) さびしいのでネコにお手をさせながらささやいたよ。「戦争に勝ったらみんな帰って来るよ」と

7月3日(火)

学校の農場でサツマイモとたまねぎの収穫作業。作物のほとんどが盗まれていたのであせんとする。収穫した物を子どもたちに配給(配った)。「船が無事に到着」との電報(連絡)が来ない!少し不安になる。

7月4日(水)

深夜に軍の部隊に聞きに行ったが「まだ連絡が入っていない」といわれた。昼ころ、確認に人を送ったが「問い合わせ中」だった。晩ごはんの後、島の郵便局長に電話すると「疎開船は機雷で沈んだ」との電報(連絡)を受けたと告げられた。駐在さんからも「遭難の通知があった」との連絡が入った。

村長など3人が家に来て、10時半まで協議。「海南花山面沖で機雷に触れて船が沈没。3日午後10時

時点で約100名が救助された」とだけが判った。

7月5日(木)

空も泣いてくれるのか、朝から雨もよう。島の役場へも行ったが、子どもたちの安否情報は来ていない。夕食前に郵便局長の福留さんに招かれた。福留さんも疎開船に家族が乗船していたので、いろんな話をして二人で泣いてしまった。

夜になり、雨が本降りとなった。乗船した子どもたちの安否情報はついに来なかった。みんな、家族の生存をあきらめないといけない状況となったようだ。

【小松虎兎丸先生の日記[小松 英郎さん提供]より】

第2章 戦地へ向かった教師や学生たち



パナー写真:

八日市国民学校の児童による出征兵士たちの見送り

アルバム『たたかふ児ら』[麻原 康子さん提供]より

戦地へ駆り出された学校の先生

戦前、大人の男性は兵役につくこと(兵士として軍隊に入ること)が法律(兵役法)によって義務づけられていましたが、師範学校を卒業した教師たちは、教育制度を維持するため徴兵制度上、優遇されていました。通常は、2~3年間の兵役となる現役兵(徴兵検査を受けて、20歳ころに課される兵役)をほぼ5ヶ月程度、兵士としての教育を受けるだけの短い期間(短期現役兵)で終えることができ、その後も召集されることがまれな兵役期間(第一国民兵役)となりました。

日中戦争が長期化するなか、昭和14年(1939年)に教師への優遇措置を定めた兵役法第10条の条項が削除された結果、多くの教師たちが戦場へおもむくこととなりました。



出征された教師(外村芳夫先生と森孝一先生)への八日市国民学校の児童たちが送った慰問の品々

外村先生と森先生は戦場から無事に帰って来られ、戦後も教師をされていたそうです。(アルバム『たかから児ら』より)

【体験談—もう二度と学校に帰って来られへんと思った。—】 Bさん(大津市)南五個荘国民学校(現在の東近江市立五個荘小学校)の先生をされていたBさんは、昭和18年(1943年)1月に関東軍へ入隊することになりました。

わしらの3年前までは、教師は6ヶ月で兵役免除になってたけど、わしらの時にはもう、そんな制度はもうなくなってたんや。昭和17年(1942年)に徴兵検査を受けて、甲種合格して、しばらく先生をして、次の年の1月に関東軍から迎えが来て、広島に集合したんや。新儀村(現在の高島市の一部)からは3人が一緒に行きました。新旭国民学校(現在の高島市立新旭小学校)でみんな行くもんは集まって、送ってくれはるんや。そこで、子どもたちとの別れをして、ほして、江若鉄道の駅に行くまでな、幟を持って送ってくれたんや。そんなときはなあ、愛国婦人会とかいっぱい送ってくれはったわ。その当時は「いや」ってなことは言えなんだなあ。せやけど、そらあ、もう、いややったなあ。「このままなあ、学校の先生、さしてもろてたらなあ。」となんぼ思たかわからん。そらあ、先生でいれたら子どもと楽しいやれたのに。もう二度と学校の先生はでけんと思たなあ。

向こうへ行ったら、恐らく帰って来られへんと思てたなあ。

昭和20年(1945年)8月、満洲(現在の中国東北部)にいたBさんたちの部隊は、突如参戦してきたソ連の攻撃を受けました。

わしらの部隊は洞窟みたいなおとこにおったんや。わしは通信(兵)やから弾の来るところで(通信文を)打たんでええねん。ところがな向こうが攻めてきよるさけいに通信や歩兵や、関係なしに弾がビュビュン、ビュンビュン飛んできよって「こらあ、かなん」と思た。怖わあて、怖わあて、寝れへんがな。それで、戦車を攻撃するのにな、爆薬を持ってな、道の両側にこう引っ張ってな、戦車がちょうど乗りよったらバンと行きよるさかい、(地雷設置の)切り込み隊で行かんならんねん。もう向こうから戦車がドンドン来よるさかい、交替で「今日はお前が行け」と命令が来るわけや。わしも何時行かんらんことになるか、ドキドキドキしてた。通信でも順番で行かんならんねん。こっちも弾を撃たな。ほで、戦車に乗った人(戦車に肉薄した人)が撃たれたりしやはったわ。(死体が)道端にいっぱいやった。

その後、3日ほどで転進命令が来たんで負傷者をまず牡丹江の駅から病院列車に乗せてたんや。病院列車にはごっつい赤十字のマークが付いたった。可哀想になあ、足のない人とか、いっぱい乗つとんねん。ところがそれを向こうの飛行機が、ごっつい自動小銃でバツバツバツバツバアアアと撃ってきよるんや。それはもう生き地獄やった。

【体験談—インパール作戦に参加した先生—】

堀田 肇さん(米原市)昭和16年(1941年)に春照国民学校(現在の米原市立春照小学校)の先生になった堀田肇さんにも戦争の影が忍び寄って来ました。

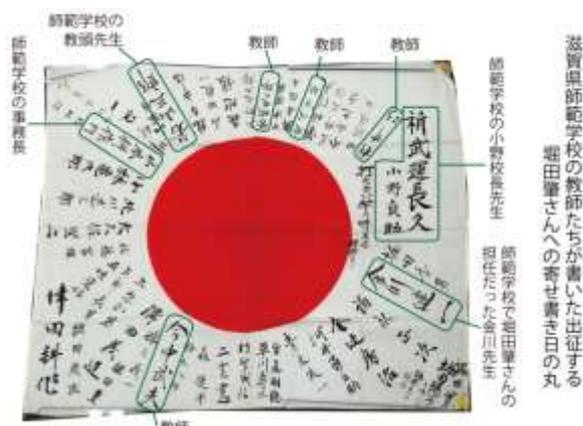
明治政府は、教育にものすごく力を入れていたので、学校の先生には短期現役制度という制度を作っていたんです。半年の(兵役だけ)で満期除隊となり、帰って来れたんです。ところが悲しきかな昭和15年(1940年)徴集からこの制度はなくなった。私は16年徴集でしたので、昭和17年(1942年)2月

現役で入隊したんです。

寄せ書き日の丸は、叔父が滋賀師範（現在の滋賀大学教育学部）の先生をしておりましたので、いつの間にか作っておいてくれたんです。武運長久と書いてくれたのは、師範学校の校長先生です。我々の（担任の）金川先生や教育訓導（教頭先生）の若山さん、事務長の山本耕作さんといった先生方が書いてくれました。

堀田肇さんの入隊した部隊はビルマ（現在のミャンマー）連邦共和国）へ送られ、インパール作戦を戦うこととなりました。

昭和19年（1944年）4月3日、（インパール手前の山の英国軍陣地へ）夜襲をかけたんです。ところが二重にも三重にも防御されててね、弾がくるだけやなしに、地雷はあるし、なんやかんやらで、中隊で80人以上亡くなったんです。制空権をとられてたんで、昼は飛行機は来ますし、砲弾は来るし、それで「退却せよ」という命令を受けて、（後方の陣地）へ帰ったんです。（陣地）は断崖みたいになってたんですが、毎日、戦車を中心に向こうの兵士が崖を崩しに来るんですよ。じりじりと近づいて来てあと40mぐらいまで戦車が来ました。「こんなんになったら今日は玉砕だな」と、いったのが、4月17日でした。最初は右腕と左太ももをやられたんです。砲弾が当たって、肉がそげたんです。それから、今度は右耳をやられましてね。耳が聞こえんようになりますわね。右手手首もその時一緒にやられたんです。朝の9時ぐらいにやられて、ダンプで谷底の方へ下げられて、ほっぽなされてましたんです。（あたりが）真っ暗になってから軍医が診てくれたんですけど、「堀田少尉、おまえな、もう、インク瓶一杯分血が出たら、それで終わりやったな」と、いわれました。血が出ますと暑いところでもね、ものすごく寒くなる。そして、震えてくるんです。



インパール作戦で破損した双眼鏡

堀田肇さんがインパール郊での戦闘で負傷した時に、弾を受けて破損した双眼鏡です。レンズなど破損した部分は戦後、修理されていますが、本体（左下側）には当時の傷が残っています。

【学校教練の先生の戦死】

鳴村 平吉さん（野洲市）
篠原尋常小学校（現在の野洲市立篠原小学校）で学校教練を指導していた鳴村平吉さんは、昭和13年（1938年）5月、召集を受けて戦争に行きました。妻のうのさんのお腹の中には娘の勝枝さんがいまし

たが、生まれて間もない勝枝さんに会うことなく、その年の8月18日に中国で戦死されました。

篠原村（現在の野洲市の一部）をあげて行われた嶋村平吉さんお葬式（村葬）には、小学校の全校児童が書いた文集が捧げられました。



軍服姿の嶋村平吉さんと子どもたち〔個人提供〕



戦場付近の嶋村平吉さんの埋葬地（中国杭州市街地）

〔個人提供〕



篠原尋常小学校の全児童が送った嶋村平吉先生への追悼文集

村葬で供えられた篠原尋常高等小学校全児童からの文集

（昭和13年頃）



嶋村平吉さん関係資料

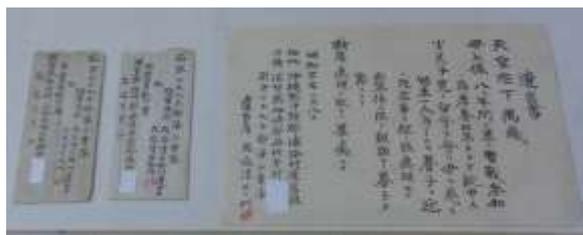
千人針・武運御守（鞍馬寺）・太元帥明王御守・

五大力尊守護御守（醍醐寺）・帝国在郷軍人会 役員徽章

【沖縄から届いた遺書】

左近 清左衛門さん（東近江市）
 廃村となった茨川（東近江市茨川町）で学校の先生をされていた左近清左衛門さんは召集に応じ、昭和13年（1938年）に中国の戦場へ向かいました。見送りに来た妻の左近とみさんに「涙一滴こぼさぬよう元気に見送って欲しい。涙を見ると、隊へ戻ってからも思い出すから」と話されたそうです。

昭和20年（1945年）3月、死を覚悟した沖縄の左近清左衛門さんから家族のもとに、遺言書と遺髪、遺爪が届きました。5月7日、左近清左衛門さんは沖縄県首里付近で戦死されました。妻とみさんが夫の戦死を知ったのは2年近く経った昭和22年（1947年）2月のことでした。役場から届いた死亡告知書には「昭和20年5月7日、沖縄本島首里方面ノ戦闘ニ於テ戦死」とだけ書かれていました。



沖縄で戦死された左近清左衛門先生の遺言書



左近清左衛門さんと妻とみさん [左近 とみさん提供]

【子どもたちと故郷の風景を愛した佐々木高典先生】

佐々木 高典さん (東近江市)

御園国民学校 (現在の東近江市立御園小学校) で教師をされていた佐々木高典さんは授業中、よくチョークを飛ばして生徒を叱る一方、子どもたちが勉強について判らないことを質問すると、親身になって丁寧に教えてくれる、厳しいながらも生徒思いの良い先生だったそうです。

先生の趣味は写真撮影でした。愛知川で水遊びをする子供たちや荷物運びの途中で一服する人夫たち、八日市の街なかを走る乗合馬車など、ふるさとの何気ない風景を撮影することが好きだったようです。

最初の出征では、中国の戦場へ送られた後、傷病兵として金沢陸軍病院の入院を経て、無事に学校へ戻られました。その後、大阪から疎開していた美代子さんとご結婚され、新婚生活を送っていた昭和19年(1944年)10月17日、佐々木高典さんのもとへ再び、召集令状が届きました。長男の佐々木観高さんを妊娠中の奥さんに見送られて出征した佐々木高典さんは、その年の12月、部隊を乗せた輸送船『幸福丸』が沈没して亡くなりました。沈没した正確な日時や原因は、現在も明らかになっていません。



左：軍服姿の佐々木高典さん [佐々木 観高さん提供]



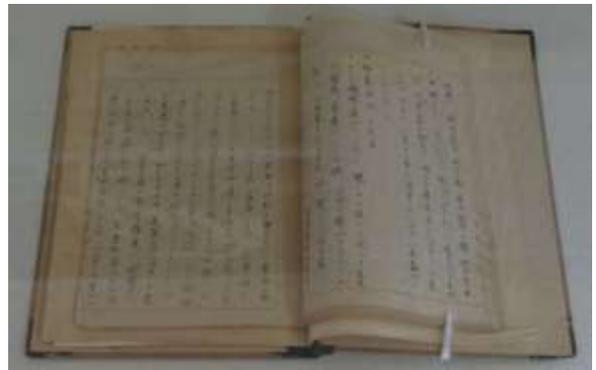
右：水辺で遊ぶ子どもたち (佐々木高典さん撮影)

[佐々木 観高さん提供]



佐々木高典さんの葬儀

[佐々木 観高さん提供]



追悼文集「故 佐々木先生様 おしのびして」

戦死された佐々木高典先生の葬儀に際して、御園国民学校の教師や児童たちが先生の思い出などを書いた追悼文集です。戦後、間のないころに書かれたもので、当時の教師や子どもたちの気持ちの一端が垣間みられます。



愛知川で遊ぶ子どもたち（佐々木高典さん撮影）

〔佐々木 観高さん 提供〕



八日市市街（金屋通）を行く乗合馬車（佐々木高典さん撮影）

〔佐々木 観高さん 提供〕



妹村（東近江市妹町）の風景（昭和15年、佐々木高典さん撮影）

〔佐々木 観高さん 提供〕

第3章 戦争へ駆り出された学生たち 教師を目指す学生も『学徒出陣』

戦前の日本でも、子どもたちが専門的な知識を学ぶ機会は、兵役よりも優先されていました。中学校以上の学生は法律（兵役法）によって、在学中の徴兵が最高27歳まで免除されていたのです。

しかし、戦況が悪化した昭和18年（1943年）、政府は不足する兵士や下士官を補うため、徴兵年齢を19歳へ引き下げるとともに、中学生以上の文系学生の徴兵猶予措置を停止しました。例外措置として、戦争継続に必要な理工系の大学・専門学校や国立の師範学校・高等師範学校（現在の教育大学や大学の教育学部）などの学生には徴兵免除が継続されましたが、私立大学の高等師範部（現在の教育学部）の学生は徴兵対象となりました。その結果、早稲田大学在学中のKさんたちは、昭和18年（1943年）10月20日の『学徒出陣』壮行会ののち、戦場へ送り出されました。

【体験談—『学徒出陣』の寄せ書き日の丸—】

Kさん（長浜市）

Kさんは、年老いた親の面倒を見るため、自宅から通える仕事として教師を選び、早稲田大学高等師範部（現在の教育学部）で学んでいました。

（学生の徴兵猶予措置を停止する）勅令が出たのは昭和18年（1943年）10月1日でした。10月20日、早稲田大学『学徒出陣』の壮行会が戸塚の早大安倍球場（現在の早稲田大学中央図書館付近）で開かれました。千人以上の学生がごっそり抜け、後の授業が成り立たないほどだったと聞いています。

当時は、子どもの頃から軍国主義教育を受けていましたから、建前からいえば、国のため、天皇陛下のために尽くす時がいよいよ来たなという感じでした。運命に忠実たらんとしたことは確かですが、一方では、国家意志が今、とんでもない方向へ突っ走っているのではないかという不安はありました。かといって、国家意志に背くのは総力戦体制の中、不道徳だ。しかも、これから死地におもむくというのに、今さら卑怯ではないか、女々しい。一種の正義感ですね。心の羅針盤を失ったというのか、揺れ動き、矛盾だらけの始末でした。

為書き（日の丸の揮ごう）を総長に頼んだのは壮行会前後のころでした。学友のM君と相談して、まだ誰も書いてもらってはいないはずの総長に揮ごうを頼んだものです。大学本部の玄関でご出勤を待ち伏せして、「お願いします」と二人、頭を下げたところ、「後で秘書に届けなさい」と、意外にもあっさり、事が運びました。故郷の自宅を発つ前夜、これを画鋏で張り付けて置きました。家族は復員帰郷するまでの2年8か月、張ったままにして、その前に立て掛けた私の写真に毎日の食事のたびに、陰膳を据えていてくれたのです。

寄せ書き（日の丸）は、早稲田の顔となる先生方に一筆を頼みに教授室を回りました。ちょうど女性が千人針を頼みに回る感覚ですね。中には丁重に拒む先生もおられたが、それはそれで納得できました。八幡商業学校（現在の県立八幡商業高校）の同級生十数人が東京に住んでいまして、壮行の宴を催してくれたんです。幹事役のY君が是非一筆書かせてくれと言ひ、空いている所へ「有待会東京支部」と、1字ずつ跳び跳びに書き込んでくれましたが、彼も戦死しました。

その後、Kさんはビルマへ派遣されました。終戦後に捕虜収容所で強制労働に従事され、昭和21年（1946年）7月に復員されました。戦後は県立長浜北高校で長らく教鞭を取られました。



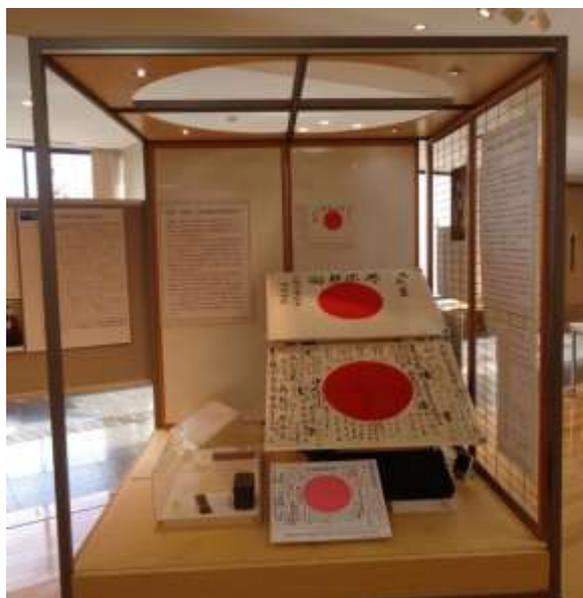
Kさん（早稲田大学から学徒出陣時）

〔Kさん提供〕



Kさん（前列右端）といっしょに徴兵検査を受けた朝日村（現在の長浜市の一部）出身の学徒たち（背広姿は村の兵事係員）

〔Kさん提供〕



Kさん関係資料（寄せ書き日の丸など）

総長の『為書き』が語る戦争中の早稲田大学

戦争中、早稲田大学にも軍や政府からの強い圧力がありました。言論統制や私学への締め付けが進む中、大学総長の田中穂積は、大学が生き残るため軍国主義的な教育を行う学徒錬成部を設け、戦争に協力する大学の改革を推し進めました。

大学が刊行した『早稲田大学百年史』には、学徒出陣直前の大学教授たちの姿を「君らが行くことによって日本の将来に明るさを覚える」と言う教授がいる一方で、「ただ御苦勞様としか言いようがない。それにしても身体だけは」と、激励とも労りともつかぬ沈んだ調子の言葉だけを学生たちに与える教授もいた」と記しています。大学教育が軍国主義によ

って変質し、教え子たちもが戦場へと送られる現実に苦悩する教授もいたのです。

当時は「まだ誰も書いてもらっていないはず」とのKさんの予想に反して、多くの学生が田中総長に『為書き』をねだりました。『早稲田大学百年史』には、「中には日の丸の旗を携え、研究室で恩師に武運長久の『寄せ書き』を請う学生の姿もあった。総長田中穂積はそのような学生の乞いに応じて、終日総長室で揮毫の筆を執っていた。」と、病気をおして出征する学生のために『為書き』を書き続けた総長の逸話が紹介されています。翌年に病死する総長を突き動かしたのは、自分が推し進めた学校改革への後悔の念だったのかもしれない。

『寄せ書き』を贈った早稲田大学の教授たち

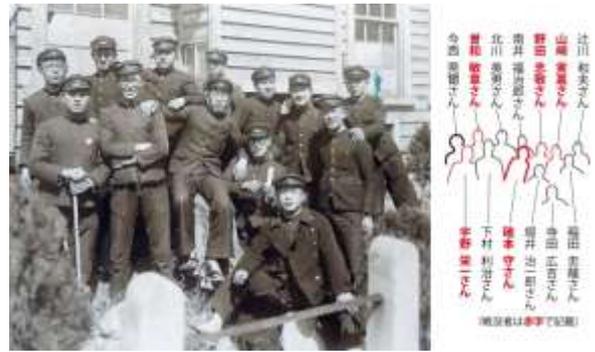
Kさんの『寄せ書き日の丸』には、戦時下の早稲田大学の教授たちの様々な想いが記されています。

軍国主義を主張した柳志蓮(青柳篤恒)や今田竹千代、三橋喜久雄らが『忠烈』(忠義心が厚いこと)や『奉皇殉闘』(天皇のために戦死すること)といった勇ましい言葉を記す一方で、万葉集研究の大家であった窪田空穂や大正デモクラシーを代表する教育学者の稲毛金七らは『好征』(良き出征)や『人生は只一度や』と、Kさんの「無事な帰国を願う気持ち」や「無駄死をいさめる」ともとれる微妙な言葉を贈っています。

『皇風万里』(天皇の良い政治が遠方まで広がるように)と記した杉森孝次郎は戦前、アジアでの欧米諸国の影響を排し、日本を中心としたアジア諸国の地域共同体『大自治区』を提唱していました。ところが戦後、杉森孝次郎は民間の学識経験者らが組織した『憲法研究会』の一員として、GHQによる憲法草案に影響を与えたとされる『憲法草案要綱』のなかで、平和主義の条文や天皇の政治的な権限を認めない『象徴天皇制』の発案に関与しました。

その他、『寄せ書き』にはアイヌ語研究や国語辞書の編纂で有名な言語学者の金田一京助や大学でフランス文学などを教えながら、数多く名曲を創った作詞家の西條八十などの有名人の名前もみえます。横溝正史の名探偵『金田一耕助』は金田一先生の名前から取られたものです。また、西條八十は、NHK

朝ドラ『エール』の主人公のモデルとなった古関裕而とともに、戦争中、『若鷺の歌』や『比島決戦の歌』などの多くの軍歌を作りました。終戦の前日に大学を辞した西條八十は戦後、『青い山脈』や『王将』などの多くの大衆歌謡を作詞し、戦争によって荒廃した人々の心を歌で勇気づけました。



滋賀師範学校の学生たち

(4年生の修業式、昭和18年(1943年)3月撮影)

[宇野 博己さん提供]

陸軍・海軍に志願した滋賀師範学校の学生たち

昭和18年(1943年)の師範教育令により、教師を養成する県立の滋賀県師範学校が官立(国立)の滋賀師範学校になりました。その結果、昭和18年(1943年)3月に卒業するはずであったその年の師範学校4年生(現在の高校3年生)は、修業期間が4年間から4年6ヶ月間に延長され、9月の卒業予定となりました。しかし、彼らは学校に就職しても、教師への兵役優遇(短期現役兵制度)の廃止により、数ヶ月後には徴兵されて戦場へ送られる運命が待っていました。

当時、日本軍は損傷が激しい航空戦力を立て直すため、飛行兵となる高等教育を受けた多くの学生が必要でした。学校からの強い勧めもあり、碓本守さんたちは海軍飛行専修予備学生や陸軍特別操縦見習士官に志願し、入隊しました。

彼らが一人前の飛行兵となった昭和19年(1944年)には、日本軍が戦況を打開するため、飛行機を操縦士もろとも敵艦船へ体当たりさせる自爆攻撃(特別攻撃)を本格的に行い始めました。昭和20年(1945年)4月~5月には滋賀師範学校卒業生の碓本さんや吉田信太郎さん、宇野栄一さんが沖縄方

面へ向けて、生還の可能性のない特別攻撃隊の一員として出撃していきました。

昭和18年(1943年)に滋賀師範学校を卒業された105人のうち、少なくとも21の方が志願し、入隊しました。そして、特攻で戦死された3人を含めて、16人が戦争の犠牲となりました。

【教師となる夢を断たれた碓本守さん】

碓本 守さん(大津市)

昭和18年(1943年)、滋賀師範学校の5年生(現在の大学1回生)だった碓本守さんは第13期海軍飛行専修予備学生に志願し、三重海軍航空隊に入隊しました。

滋賀師範学校からは、碓本さんとともに同学年の6人の学生が三重海軍航空隊に入隊しました。滋賀師範学校では、9月25日の卒業式を待たずに入隊する碓本さんたちを仮卒業とし、校長室で卒業式を開いて送り出したそうです。

昭和19年(1944年)、碓本さんは博多海軍航空隊を経て、4月ごろ香川県詫間海軍航空隊に配属されました。8月ごろには、詫間海軍航空隊で予科練生たちを指導する教官を務められました。教官となった碓本さんは、親友の今西莞爾さんに宛てた手紙で『今になり学校で習った教育も有効になった。やっぱり出て見れば学校の有難も分る。』と、学校や恩師の先生方に感謝されています。

昭和20年(1945年)2月、水上機による特別攻撃隊(琴平水心隊)が編成されました。碓本さんたちの飛行機(九四式水上偵察機)は、水上での離着陸に使う大きなフロートをもつ偵察用の飛行機でした。

5月4日、碓本守さんが操縦する飛行機は、ほかに2名の搭乗員と500kgの爆弾を載せ、沖縄への特攻のため詫間から飛び立ちました。碓本さんたちは、鹿児島県指宿に寄港したのち沖縄方面へ向けて出撃し、鹿児島県沖永良部島付近で敵艦に突入して戦死されました。



海軍夏期制服の碓本 守さん [碓本 綾子さん提供]



水上機の前でかまえる碓本 守さん [碓本 綾子さん提供]



碓本 守さん(左側)と堀井治一郎さん(右側の飛行服姿)

[碓本 綾子さん提供]



碓本守さんが今西莞爾さんに送った手紙です。優秀な碓本守さんは、海軍でもパイロットの**指導教官**になったんだ。教官になって「(師範)学校で習った教育も有効になった」と、学校の**先生に感謝**しているね。
 戦時の最前線に、家族へ送った手紙でも、最後に練習生への指導が途中で終わることを「残念ですが…」と最後まで気にしているよ…
本当は、先生になりたかったのかも…



碓本 守さんが練習生に託したトランク

海軍軍帽・海軍将校の外套など

トランクは碓本守さんの最後の手紙に書かれているものです。指導していた練習生に、遺品の品々とともに自宅へ持って行くよう託しました。



千人針・慰問袋

神戸市立神楽国民学校の児童が碓本守さんへ送った慰問袋です。



今西莞爾さんと碓本 守さんが送りあった手紙・ハガキ

【体験談一友だちが志願する中で感じた想いと現実一】

今西 莞爾さん (大津市) 昭和16年(1941年)、滋賀県師範学校4年生(現在の高校3年生に相当)だった今西莞爾さんは、学校での農作業中に負傷し、右目を失明しました。

碓本守君は血気盛んで、勉強もあまり好きな方ではなかったけど、親分肌で非常に気の優しい男でした。私が右目を怪我して入院した時には、週1回、必ず病院へ見舞いに来てくれたんです。そして、自分のノートを見せて、勉強の内容を教えてくださいました。私は「君に教えて貰っていて、間違いがないのかなあ」などと笑ったものでした。

昭和18年(1943年)に海軍予備学生志願制度が設けられ、配属将校の勸奨(勧め)もあって、碓本君たち同級生も10数名が応募しました。当時の学校は「皇国民の練成」を教育の中心テーマに据えていたましたから、私たちは「祖国のために生命を捧げる」ことに何も疑いを抱いていませんでした。私も海軍予備学生に志願したかったけど、右目を失明しては到底無理でした。当時、私は文字通り地団太を踏んで悔しがりましたよ。

海軍予備学生となった碓本さんたちは、一足早く卒業していきました。

一度、海軍予備学生たちが休暇で学校に立ち寄ったことがあるんです。碓本君たちは真っ白な夏の海軍制服に将校帽を被り、腰には短剣、そして真っ白い手袋を身につけていました。その痺れるような恰好を見て、改めて「自分は何故、こんな怪我をしたんだろう」と悔やみました。でも、鈴鹿航空隊に面会に行った時、よほど古兵(先輩の兵士)のシゴキがきつかったのか、彼が「今西、お前、こんな所へ来なくてよかったよ」と漏らしたんです。

今西莞爾さんは滋賀師範学校を卒業し、昭和18年

(1943年)10月から中央国民学校(現在の天津市立中央小学校)の教師になりましたが、ある日…

昭和19年(1944年)3月、右目を失明している私に召集令状が来たんです。母は召集令状を見て声が出ないほど驚き、父にも「生きて帰って来いよ」といわれましたが、「何とかしてお国の役に立ちたい」との一念で、即日帰郷の措置(身体上な問題から、入営当日に除隊とする措置)を断ったんです。でも、実際に入営してみると、直ぐに軍隊の馬鹿さ加減が分かりましたね。些細なことでリンチが行われ、正当なことを発言しても上官への反抗と受け止められて罰を受けました。いくら国のためと思っても、「こんな軍隊はいやだ」と思いましたね。



出撃前の碓本 守さん(手前左列側) [碓本 綾子さん提供]



碓本 守さんが家族へ宛てた最後の手紙の写真(手紙現物は靖国神社所蔵) 手紙 碓本守さんより 両親、妹幸子さん、英子さん、千歳さん、義智さんあて(昭和20年5月4日ころ)

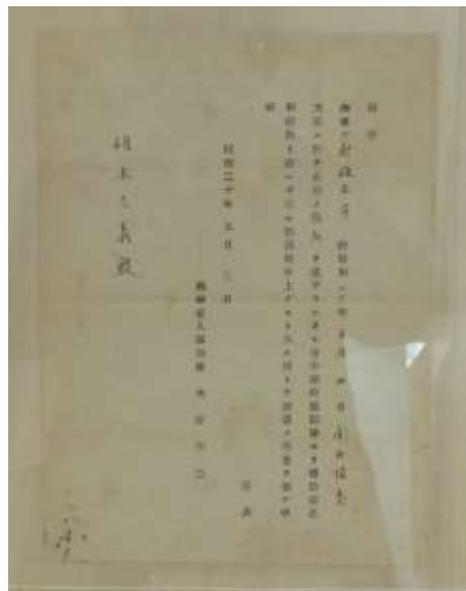


特攻への出撃前の碓本 守さん(手前右端の後姿)

[碓本 綾子さん提供]



碓本 守さんが家族へ宛てた最後の手紙(翻刻)



碓本 守さんの戦死の通知(昭和20年9月6日)

【体験談—飛行機での特攻または、戦車への自爆攻撃・・・—】

今西 莞爾さん（大津市）
昭和20年（1945年）5月4日、碓本守さんは、鹿児島県の指宿基地より特攻機に乗って出撃し、鹿児島県沖永良部島沖で戦死されました。今西莞爾さんは、碓本さんが出撃前に書いた手紙を受け取ります。

出撃前の碓本君が私に宛てた手紙には「自分は国のために突っ込む。今西、君は軍隊に行けないと落胆することはない。第二、第三の皇国の国民を育てるのも、同じように大切な仕事だ」という意味のことが書かれていました。

ところが6月、ふたたび召集令状が届いたんです。子どもたちがまた「万歳、万歳」と手を上げて見送ってくれました。配属先は九州の鹿屋基地でね。山の中腹に何千人と入れる大きな洞穴が作ってあったんです。私たちの部隊は終戦までその中で暮らしてました。そこで、古兵（先輩の兵士）にいわれたんです。「我々は、米軍が上陸して来たら、爆弾を抱いて敵の戦車や上陸用舟艇に飛び込むための要員だ」と……。



戦前の教科書

『新制公民科教本』・『ヨイコドモ 上』・
『国民学校職業指導教科書』 高等科第一学年用・
『中等物象 二』

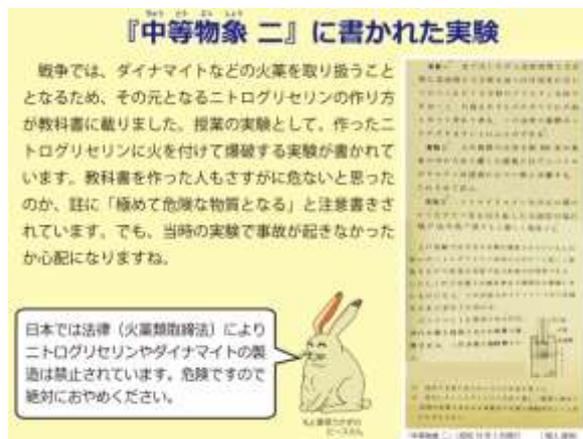
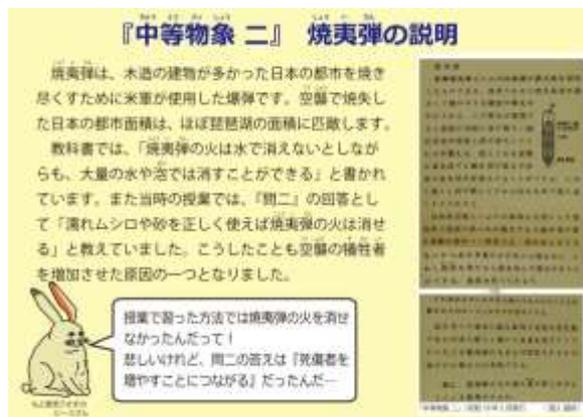
毒ガスの効果・対処法が書かれた化学の教科書

塩素ガスやイペリット、ホズゲンなどの毒ガスの種類や性質などが書かれています。一応、対処法として、アンモニアを嗅ぐなどの方法も教えていますが、その方法で防毒効果があるかどうかは保証の限りではありません。

戦争中の教科書

戦争中、教科書には、戦争や軍隊を題材とした軍国主義的な内容が多く盛り込まれています。国家のために尽くすことを教える『修身』の授業の教科書はもちろんのこと、国語や算数、音楽まで、すべての教科書が戦争につながるものでした。現在の小学1年生に相当する国民学校初等科1年生の国語の教科書『ヨイコドモ 上』にも、読み書きの手本として戦地で活躍する軍隊の話が載っています。将来の職業を紹介する『国民学校職業指導教科書』では、進むべき進路として軍への志願兵「少年兵」が大きく取り上げられています。

昭和19年（1944年）の中等学校（現在の中学校～高校2年に相当）『物象二』（科学）の教科書には、ダイナマイトの作り方や毒ガスの効果とともに、空襲に備えるため、焼夷弾の消火方法が載っていますが、それは国民の不安を解消するために政府が出した『水と砂・濡れムシロで焼夷弾は消せる』とする間違った事実でした。



第3章 教師たちの戦後

墨塗り教科書

昭和20年(1945年)8月15日、連合国に無条件降伏することを国民に告げる昭和天皇の声(玉音放送)がラジオから日本中に流れ、戦争が終わりました。

県内の国民学校の先生たちは、夏休みが終わった9月の授業で子どもたちに教科書から軍国主義的な戦争を押し進める内容のページに墨を塗る作業を行わせました。

教科書の墨塗りは、9月20日の「国語教科書中の軍国主義教材の削除・省略」を指示した文部省次官通知やその先行情報を受けて全国の国民学校や中等学校などで行われましたが、実際には教師や学校・地域の独自判断で消去する部分を決めたようです。

教科書の消し方も墨塗りだけでなく、不要なページを破ったり、上から紙を貼ったり、消去するページを糸でとじたりとやり方もいろいろだったようです。



【体験談—墨塗り教科書—】

Hさん(甲良町)

Hさんが軍隊から復員して、昭和20年(1945年)9月に高宮国民学校(現在の彦根市立高宮小学校)の教師に復職された時の話です。

(最初に受け持った4年生の)授業を始める前に、最初にさせたのが教科書に墨を塗ったり破いたりすることでした。子どもたちに硯と墨・筆を持ってこさせて、「このページの何行目から何行目までに墨

を塗って消しなさい。この絵にも墨を塗りなさい。このページは切り取るように」などと教室で子どもたちにゆうたんです。戦争のことはもちろん、飛行機の絵なども墨で塗り消しましたね。

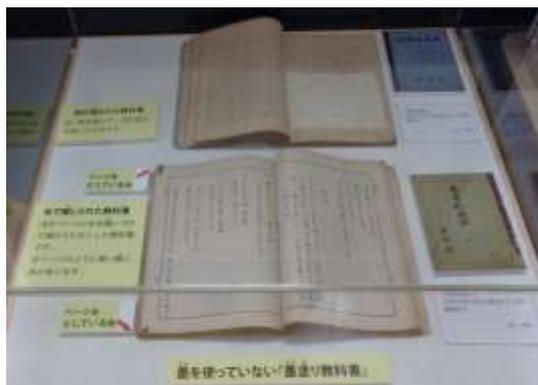
わしら教師たちも校長からの指示で「ここは墨で塗る、ここは切り取る」などと教えてたんですよ。その時は「情けない、なんでこんなことせんならんのか」と思ったけど、「アメリカ軍が進駐してきたら大変だぞ。剣などが見つかったら大変なことになるぞ」と、びくびくしていた時代でした。「戦争に負けたんやから、仕方がない」と思ってさせてましたけど、子どもらは素直に言うことを聞いていましたわ。終戦後しばらくは、それが授業の代わりでしたわ。



墨塗りされた音楽の教科書

上:『高等科音楽 一』男子用

下:『初等科音楽 四』教師用



墨を使っていない『墨塗り教科書』

紙が貼られた教科書(『高等科算数 一』)

白い紙を貼って、消す部分を隠したものです。

糸で綴じられた教科書(『高等科国語 二』)

消すページに糸を縫いつけて開けられなくした教科書で

す。左ページの上下に黒い綴じ糸があります。

戦後の教科書

昭和20年(1945年)10月、GHQ(進駐軍)は『日本歴史、地理、修身の三教科の授業停止』の指令を出します。これらの教科書は全面回収され、他の教科についても軍国主義的な部分を黒塗りした教科書やパンフレットのような簡易の教科書を使用して授業が行われました。

昭和22年(1947年)頃から、教育基本法の制定や新しい学校制度の実施に先行して、順次、戦後の教科書が発行されましたが、昭和26年(1951年)のサンフランシスコ講和条約で日本の独立が認められるまで、文部省を通じてGHQの検閲を受けなければなりません。当時の教科書の奥書には、『Approved by Ministry of Education (Date 日付)、文部省検査済』と記されています。

特に、歴史や公民などの教科書は、戦前に教えてきた内容と大きくかけ離れた部分も多く、教師たちも自らが学びながら教えることとなりました。

絵に描いたマーメイド?教科書『食物全』

『食物全』は、戦後に新しくつくられた『家庭科』の最初の教科書の1つです。この教科書は、昭和22年(1947年)、新制の高校へ移行する前の旧制中等学校(現在の中学～高校2年に相当)用として発行されました。

「料理の作り方」として、チャーハンやカレーライス、ビーフシチューなど、私たちも日ごろ食べている料理が載っています。また、果物を使った『夏みかんのマーメイド』などの、当時の人になじみの少なかった洋風の食物も紹介されています。一見すると、明るい戦後を示す教科書とも思えますが、当時はまだ、日々の食べ物に不自由する食糧難の時代でした。砂糖を多量に使うマーメイドを調理実習でつくることは、ほぼ不可能だったと思われます。マーメイドやクラムチャウダーといったアメリカの日常食を掲載した教科書の料理は、ほとんどの生徒にとって、『絵に描いた餅』ならぬ、『教科書に書かれた謎のおいしい料理』だったはずです。



新しい算数 四年上 (小 学 校) (小 5)

(Approved by Ministry of Education, Date Oct. 25, 1945)

昭和二十五年十月二十日 印刷 定 価 35 円
昭和二十五年二月一日 発行

(昭和二十五年十月十日 文部省検査済)

東京書籍株式会社 代表取締役 田 次
東京本社 東京都千代田区日本橋七番地
東京支店 東京都中央区本町二丁目
東京支店 東京都中央区日本橋七番地
東京支店 東京都中央区日本橋七番地

発行所 東京書籍株式会社

（出版後の訂正・増補及び印刷後の刷り直しは行いません）

文部省の検閲済を示す奥書

戦後教科書の奥書

『新しい算数 四年上』(昭和25年2月発行) 個人提供

この教科書を使われる先生や父兄の皆様へ

戦後の教科書は、戦前とは大きく異なるものがあります。戦前とは異なり、平和な社会を築くための教育が求められています。この教科書は、戦後の新しい教育方針に基づいて編纂されています。戦前とは異なり、軍国主義的な内容は削除されています。また、戦後の新しい社会情勢に合わせて、新しい内容が追加されています。この教科書は、戦後の新しい教育方針に基づいて編纂されています。戦前とは異なり、軍国主義的な内容は削除されています。また、戦後の新しい社会情勢に合わせて、新しい内容が追加されています。

「教師のかたがたへ」
「大むかしの人々」 昭和24年10月印刷発行 (個人提供)

「この教科書を使われる先生や父兄の皆様へ」
「新しい算数 四年上」 昭和25年2月発行 (個人提供)

戦後の教科書 執筆者から教師・父兄へ向けた言葉

ローマ字の教科書『TARŌ SAN』

GHQ(進駐軍)は一時期、日本語(ひらがな・カタカナ・漢字)のローマ字化を検討しました。それに伴い、小学校でローマ字教育が行われました。昭和24年(1948年)3月に修正発行されたローマ字読本(第二種)『TARŌ SAN』は、小学校で使われた教科書です。日本語は同じ発音で違う意味となる文字が多いため、ローマ字の文章は、文字数が増えるだけで、かえって分かりにくくなりますね。

ひらがなに交換
ここは たらー さん の がっこー です。
しー さん も ゆきこ さん も、まいにち この がっこー で べんきょー する の です。
たらー さん の とちだち が あちら の あち から、こちの の みち から、ここ え あつまつて きます。
せんせい は、ちー ちー に なつて います。

漢字に変換
ここは太郎さんの学校です。次郎さんも雪子さんも毎日この学校で勉強するのです。太郎さんの友達があちらの道からも、こちらの道からも、ここへ集まってくる。先生はもうおにいさんになっていそうですね。

とつても読みにくいよ～!



戦後の教科書

『食物全』『ローマ字読本(第二種)TARŌ SAN』

『大むかしの人々 社会科第三学年』『新しい算数 四年上』

学校と教師たちの戦後

昭和20年(1945年)9月2日、政府が降伏文書に調印し、日本はアメリカを中心とした連合国軍最高司令官総司令部(通称 GHQ・進駐軍)の占領下に置かれました。GHQの指令・指導のもと様々な改革が漸行され、日本は平和な民主国家への道を歩みだします。

昭和22年(1947年)、戦前の教育勅語に代わって、

『学問の自由』や『教育の機会均等』などを目標とする教育基本法が定められ、学校教育法により、『6・3・3・4制』（小学校6年、中学校3年、高校3年、大学4年）や『男女共学』など、現在に続く学校の姿が定まりました。

学校現場では、戦場へ駆り出された教師たちが徐々に戻り始め、新たな教師も採用されましたが、戦争犯罪者や軍国主義者、極端な国家主義者とみなされた一部の教師たちは公職追放により職を失いました。また、共産主義勢力の拡大を恐れたGHQの指令により、一部の教師たちが日本共産党員やその支持者として解雇されました。

戦前の軍国主義教育を受け、その教育を行ってきた多くの教師にとって、新しい自由で平等な民主主義教育は体験したことのないものでした。教師たちは、戦前の教育や想いを少なからず心に秘めながらも、荒廃した日本で新たな時代の学校教育を子どもたちといっしょに模索し始めたのです。

【体験談—ふたたび代用教員。戦後教育に戸惑う—】

新田 伝兵衛さん（高島市）

昭和18年（1943年）1月、林業に従事していた新田伝兵衛さんは、校長先生に頼まれて代用教員（臨時の教師）として朽木西国民学校（現在の高島市立朽木西小学校）で働くこととなりました。

3学期が始まって間なしでしたか、女の先生が帰られることになったんでにわかには代わりがないんで「頼む、来てもらえんか」って、校長から言われてね。「いや、そらもう難しいとこは私が教えるし、普段のちょっとしたなには、あんたももう、なんや、学校で習ってきたやろうし、そのとおりでええさかい」といわれて。ほんで、昭和19年（1944年）の秋やったかな。役場の人が来られてね。「先生もええけども、まず先生から率先して軍隊へ、兵隊に行ってくれへんか？」言われてましてね。断るわけにもいかんし、海軍を志願したんです。若いときやで、飛行兵や水兵に憧れもあったもんでね。試験受けたら通って、終戦まで（機雷除去の）掃海（作業を）やりました。まあ、海の掃除でんな。

終戦となり、高島へ帰った新田伝兵衛さんは、再び校長先生から頼まれました。

昭和20年（1945年）10月に帰って来て、昭和21年（1946年）4月の始業式からまた、学校へ来てくれということで助教員（臨時教員）になりました。当時はほとんどの男の先生が皆、兵隊行ってしもうて、（先生達が帰ってくるまでの2年間）先生をしてました。

（戦争中は）それこそ「一億火の玉」で、「皆、死んで帰って来る」ような感じでしたからな。ところが終戦になったら、もう、ころっと変わってしもうて。まあ私ら（先生たちが）一番とまどいましたね。正直言って、昨日まで「アメリカ、イギリスあんなもんは鬼や。鬼畜米英をやっつける」ってな調子で（教えてたのが）、もう帰って来て（復員して帰ってくると）全然、違いますわな。ほらもう、校長先生に渡された『マッカーサー司令部発令 新教育指針』を一生懸命読みましたがな。校長は「もう日本は変わったんやから、これのできるだけ気張って勉強して、教えてやってほしい」といってましたけど、生徒に教える立場では「ああ、えらいこっちゃな」思っていましたね。

子どもが「前、先生こんなこと言うってったのに、今日から違うのんか」と言って来たらと思うと、まあ、怖かったですわな。やっぱり頭の切り替えっちゃうのがね、そう簡単にいきませんしな。前から先生やっておられた人たちはもっと大変やったろうと思うね。

【体験談—守山空襲を奇跡的に生き抜いた戦後の教師—】

Kさん（長浜市）

昭和20年（1945年）7月30日、滋賀師範学校生のKさんは、敦賀の部隊への入営準備のため列車で実家に向かいました。

8月11日に入隊せんらんから、膳所の駅から汽車に乗って実家へ帰る途中に、守山駅でグラマン（艦載機）の機銃掃射を受けたわけや。ほで、守山の駅前の防空壕へ入ったんやけど、お客さんがどっと入ってくるわな。みな、頭撃たれへんように、頭を突っ込んで足だけピーンと出してたんや。その時、機銃掃射が脇腹の方をかすめて、横にいた兵隊さんは撃たれて死にはった。もうちょっと右向いてたら、こっちがやられてた。女の人が乳房のとこ撃たれて

倒れてるのを見たし、2人が戸板に乘せられて、運ばれていくのを見た。その後、パーッとグラマンが行ってしまったら、列車がまた動きだしたんで、それに乗って家に帰ったんや。

守山空襲で九死に一生を得たKさんは、敦賀の部隊への入隊直後に終戦を迎え、9月から学校へ復学しました。

9月1日から学校が始まって、新しい学生生活が始まったんや。僕は最初の頃に戻ったけど、士官学校行った者もおったし、海軍予備学校へ行った者もおったんで、バラバラに復学してきた。そして、軍人の学校がもうないようになったから、陸軍幼年学校やとかからも教員になろうと試験受けて、ようけ(入って)来てた。ほして、芭蕉の研究会とかができて、戦時色のない、新しい自主的な勉強が始まったわけや。

教生(教育実習生)で行った坂田国民学校(現在の米原市立坂田小学校)では、「ふる里が大事や」ということで地域学習の副読本も作ったりした。その経験から、戦後初めてできた社会科に興味を持って、(現在の長浜市立)木之本中学校の社会の先生になったんです。

(師範学校で)戦後の新憲法のことなんかを勉強してきたけど、現場へ出てみると、私より上の男の先生はみな、軍隊から帰ってきた先生ばかりや。女の先生でも、戦時中の(教育を受けた)先生や。そやから、その人らのやり方は「右へならえ。気を付けえ」て、軍事教練の延長みたいなもんやった。民主主義(教育)やらも習うてきた私らのやり方は全然違うわな。反発も持ったし、これからは、そういう強制的なものでなく、子どもの主体性とかが大事にされるべきやと思いましたね。



戦後の滋賀師範学校寮にて [Kさん提供]

【体験談—戦後・・・学校までの遠い道のり—】

Bさん(大津市)

学校や子どもたちに未練を残しながら、死を覚悟して戦場に向かわれたBさん(第2章『戦地へ向かった教師・学生たち』で紹介)の戦後です。

Bさんは戦後、満洲でソ連の捕虜となり、抑留されました。

(昭和20年(1945年))11月3日に、わしらは牡丹江からシベリア鉄道に乘せられて、カザフの収容所まで連れて行かれた。1ヶ月近くかかったなあ。どこ連れて行かれるやわからん、殺されるかどうかわからん。そんな気持ちで毎日が不安や。自分らが勝手に貨車から出られへんのやさかい。おしっこも皆その中でせんらん。そらあもうすごいストレスや。それも向こうは「もう1週間もしたら日本の国に行くさけいに」と嘘ばかりや。長いこと乗ってるんやさけい、いい加減騙されてると分かるがな。

カザフの収容所に着いたら、日本の捕虜だけやあらへんのや。ヨーロッパの捕虜もいっぱいおった。わしらの仕事は公園の掃除やとか、まあ、そんなきつい仕事はなかったで。その中でも一番やりたかった仕事は農耕作業やったなあ。ジャガイモやとか、人参・玉ネギやとか作ってる畑では、(作物を取って)なんぼ食べてもよかったんや。ロシア人は畑で食べるのんはなんにも言いよらへんかったんや。ジャガイモやらを蒸して、腹一杯喰ってたんや。

初めは(労働や待遇面で)きつかったけど、だんだん後の方(収容生活の後半)になると楽になってきた。ドイツとかポーランドの人やとか、集めて運動会やらをやらせてくれたりしたしなあ。もう帰る前になると、学芸会みたいなのもあったし、ごっつう喰わして貰えたなあ。骨と皮で帰して「日本人にこんな酷い事をしよった」と言われたらあかんから良うしたらしいわ。

昭和23年(1948年)7月に日本に帰って来たけど、8月には、もうもとの南五個荘小学校(現在の東近江市立五個荘小学校)に勤務してた。でも、その前に適格検査を受けに行かんらんねんかったんや。教育委員会で「もう軍国主義でない」という証明をはっきりしてもら(必要が)あったんや。そらあ、気持ちの切り替えはすぐにはでけんかったけ

ど変えなしょうない。それでないと適格検査は通らへん。通らな(教師として)採用してもらわれへん。「早よ(戦後の)日本に同化せんと・・・。」と思っただわ。それと別にな、進駐軍が毎年、捕虜になつたもんだけちゃんとしてるかどうか、調べよつた。「日本に帰ってからソ連の教育をしてもたらかなんがな」と、そのために調べよるんや。「そいつの精神状態がどうなってるんやろか」と調べよるんや。その検査を受けるために際川(の米軍キャンプ)まで行つた。それは3年間つづいたなあ。

パナー写真：戦後の学校(運動会)



「公職追放」審査文書・戦後の教育指導書

昭和24年度 県立湖南高等学校草津校舎(旧県立栗太農学校)の第1回体育大会の様子【小島 秀治郎さん提供】

左：受付をする女子学生

(多くの学校が男女共学となりました)

右：パン食い競走を楽しむ生徒たち

(戦後の食糧難のなか、パン食い競走は人気種目でした。)



「公職追放」審査文書・戦後の教育指導書

「新教育方針 全」

GHQが文部省に指示した教育方針が書かれています。

「判定書」(公職追放関係書類)

Kさんが公職追放の審査を受けて、該当しなかった時の判定書

「追放指定に誤りのある者の特免申請について」(公職追放関係書類)

【体験談—明るくなった子どもたちと学校—】

小澤 富美子(守山市)・N子さん(大津市) 玉緒国民学校(現在の東近江市立玉緒小学校)や瀬田国民学校(現在の津市立瀬田小学校)で教師をされていた小澤富美子さんとN子さんが感じた戦後の学校や子どもたちです。

(玉緒国民学校)で教えるのは昔(戦争中)よりなんか気楽やったな。自由、自由やで。教える事もあまり厳しくできないし、怒れないし。案外、和やかな授業。だから、その時教えた子が今でも一番よく手紙くれるんや。

(学校は)校長先生も割に頼りない田舎の人やで、ええ加減な職員会議とかしてた。先生同士も一緒に花見に行こかとか。案外、和やかやったね。

【小澤 富美子さん】

戦後、子どもは明るくなりましたね。昭和21年、22年(1946年、1947年)とまだ、配給でしたけど、子どもたちの給食が始まりましたしね。心配っていうものが全然なくなりましたからね。子どもたちは本当に安心して学校へ通えるようになりました。

【N子さん】

『希望』と『決意』—戦後の教師と子どもたち—

最後に、ある児童から戦死された佐々木高典先生に贈られた作文を紹介します。戦死の知らせは、戦争が終わった昭和20年(1945年)冬に故郷へ届きました。当時、戦争によって親しい人や財産を奪われ、食料難にあえぐ多くの人々の苦しみが社会に満ちあふれていました。

立ち直る気力も失せるような状況の中、御園国民学校初等科6年生(現在の東近江市立御園小学校、6年生に相当)だった志賀成全さんは亡き教師へ「新日本の建設は僕らの手でやりとげます。やがて花咲く日本になった時、先生も笑顔で僕たちのことをほめてくださるだろう」と、日本の復興への決意を誓いました。作文には担任の先生も「君達の若い新しい生命力こそが希望だ。その気持ちをいつまでも失わないように」と、励ましの言葉を記しています。教師は子どもたちを『教え・育み』、希望に満ちた未来へ導く職業なのです。

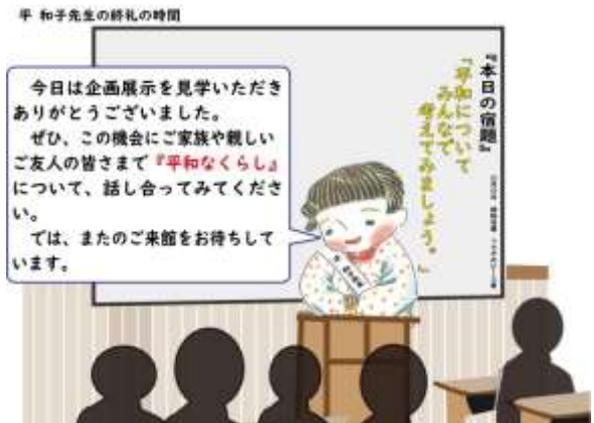
日本は、志賀さん達、戦後を生きた多くの人々の努力によって、復興を果たし、『平和』という大輪の花が咲く豊かな国となりました。戦後75年が経ち、私たちは、戦争の犠牲となった多くの人々が戦争の過酷な現実に向き合った時、心の中で望み・願いながらも手に入れることができなかった『平和なくらし』のなかで生きています。この平和をこれからも末永く守り・伝えられることを心から願います。展示が、平和の尊さについて想いを巡らせるきっかけとなれば幸いです。

最後になりましたが、戦争によって傷つき、亡くなられた多くの教育関係者や児童・生徒への哀悼の意を表します。

滋賀県平和祈念館



佐々木先生様 おしのびして 【佐々木 観高さん提供】
 戦死された佐々木先生への追悼作文
 (御園国民学校初等科六年男子 志賀成全さんより)
 担任の先生(御園国民学校教師)からの感想



第27回企画展示「戦争と教師たち－学校、子どもたち、戦場－」(会期:令和2年11月7日～令和3年2月21日) 展示資料一覧

第1章 戦時下の学校と教師たち				
No.	資料名	点数	資料説明	提供者名
1	『たたか心児ら』	1	八日市国民学校のアルバム	麻原 康子さん
2	青年学校制服 上衣	1		奥島 すみ子さん
3	スボン	1		個人
4	ゲートル	1		個人
5	靴	1		個人
6	木銃	1		松田 征也さん
7	教育勅語 謄本	1		東近江市立能登川西小学校
8	十七年式防空用防毒面	1		個人
9	訓練用手榴弾	1		東近江市立能登川西小学校
10	訓練用手榴弾	1		個人
11	『青年学校教練科教科書 全』	1		清水 竹治郎さん
12	教練検定合格証明書	1		個人
13	ノート「英語」	1	ミッキーマウスのシールが貼られている	田中 健太郎さん
14	「肉弾三勇士」のノート	1		田中 健太郎さん
15	ノート「歴史2」	1	三年乙組 高橋亮一、昭和11年9月上旬～	高橋 正さん
16	ノート「修身帳」	1	虎姫中学校 三年乙組高橋亮一、昭和11年4月～	高橋 正さん
17	絵日記	1		上野 欽一さん
18	「海軍志願兵の菜」	1	昭和19年度	正野 雄三さん
19	『THE WORLD THROUGH ENGLISH 1』	1	昭和22年1月31日修正発行、中等学校教科書発行	個人
20	傷痍奉公杖	1		坂下 治男さん
21	絵はがき「傷痍軍人白浜温泉療養所」	8		田村 栄さん
22	チラシ「国を護った傷兵護」	1		田村 栄さん
23	下賜された義眼・義肢の目録	1		個人
24	軍人傷痍徽章	1		個人
25	恩賜の義眼	1		個人
26	『闘心義手』	1	昭和16年10月20日発行、有光社	坂下 治男さん
27	岡崎製織場 場歌	1		個人
28	八日市国民学校学術隊長(学校長)から松村忠五郎さんへの 弔辞(写し)	1	昭和20年7月30日	個人
29	松崎寿吉さんから松崎香苗さんへのはがき	1		松崎 香苗さん
30	御守り袋	1	夫・松崎寿吉さんの遺品	松崎 香苗さん
31	御守り『水天宮』	1	夫・松崎寿吉さんの遺品	松崎 香苗さん
32	手帳	1	夫・松崎寿吉さんの遺品	松崎 香苗さん
33	小物入れ	1	夫・松崎寿吉さんの遺品	松崎 香苗さん
34	鏡	1	夫・松崎寿吉さんの遺品	松崎 香苗さん
35	「集団疎開児童物品託送制」について	1	『集団疎開関係書類』より	個人
第2章 戦地へ向かった教師や学生たち				
36	寄せ書き日の丸	1	滋賀県師範学校の教師らが寄せ書きしたもの	堀田 肇さん
37	双眼鏡	1	インパール作戦で破損したもの	堀田 肇さん
38	村葬で供えられた篠原尋常高等小学校全児童からの文集	1	昭和13年頃	個人
39	千人針	1	嶋村平吉さん関係資料	個人
40	武運御守(鞍馬寺)	1	嶋村平吉さん関係資料	個人
41	太元帥明王御守	1	嶋村平吉さん関係資料	個人
42	五大力尊守護御守(醍醐寺)	1	嶋村平吉さん関係資料	個人
43	帝国在郷軍人会 役員徽章	1	嶋村平吉さん関係資料	個人
44	左近清左衛門さんの遺言書	1		左近 とみさん
45	追悼文集「故 佐々木先生様 おしのびして」	1	神崎郡御園国民学校、昭和20年	佐々木 観高さん
46	寄せ書き日の丸	1	早稲田大学教授らの寄せ書き	個人
47	至急連絡事務文書「徴兵延期ノ件至急回答相成度ノ件」	1	昭和17年12月21日	個人
48	通知文書「昭和十八年臨時徴兵検査二関スル件通知」	1		個人
49	『学徒錬成』	1	早稲田大学発行	個人
50	将校用飯ごう	1		個人
51	革製ペンケース	1		個人
52	トランク	1	碓本守さん関係資料	碓本 綾子さん

53	海軍軍帽	1	碓本守さん関係資料(碓本守さん着用)	碓本 綾子さん
54	海軍将校の外套	1	碓本守さん関係資料(碓本守さん着用)	碓本 綾子さん
55	Z旗	1	碓本守さん関係資料	碓本 綾子さん
56	千人針	1	碓本守さん関係資料	碓本 綾子さん
57	慰問袋	1	碓本守さん関係資料	碓本 綾子さん
58	今西莞爾さんから碓本守さんへの手紙(昭和18年10月17日)	1	碓本守さん関係資料	碓本 綾子さん
59	今西莞爾さんから碓本守さんへの手紙(昭和19年8月24日)	1	碓本守さん関係資料	碓本 綾子さん
60	碓本守さんから今西莞爾さんへのはがき(昭和19年8月末)	1	碓本守さん関係資料	碓本 綾子さん
61	今西莞爾さんから碓本守さんへのはがき(昭和19年10月26日)	1	碓本守さん関係資料	碓本 綾子さん
62	戦死の通知(昭和20年9月6日)	1	碓本守さん関係資料	碓本 綾子さん
63	『新制公民科教本』	1	昭和6年11月29日訂正三版発行、東京開成館発行	個人
64	『ヨイコドモ 上』	1	昭和19年3月15日翻刻発行、日本書籍発行	個人
65	『国民学校職業指導教科書』高等科第一学年用	1	昭和17年12月17日発行、日本職業指導協会出版部発行	個人
66	『中等物象 二』	1	昭和19年5月15日翻刻発行、中等学校教科書発行	個人

第3章 教師たちの戦後

67	『高等科音楽一』男子用	1	昭和19年4月15日翻刻発行、大日本図書発行	個人
68	『初等科音楽 四』教師用	1	昭和18年5月25日翻刻発行、大日本図書発行	個人
69	『高等科算数一』	1	昭和19年5月20日翻刻発行、日本書籍発行	個人
70	『高等科国語二』	1	昭和19年10月25日翻刻発行、日本書籍発行	個人
71	『食物 全』	1	昭和22年12月19日修正発行、中等学校教科書発行	個人
72	『ローマ字読本(第二種) TARO SAN』	1	昭和24年3月15日修正翻刻発行・文部省検査済、東京書籍発行	個人
73	『大むかしの人々 社会科 第三学年』	1	昭和24年5月10日修正翻刻発行・文部省検査済、東京書籍発行	個人
74	『新しい算数 四年上』	1	昭和25年2月1日発行、昭和24年10月10日文部省検定済、東京書籍発行	個人
75	「新教育方針 全」	1	マッカーサー司令部発令	新田 伝兵衛さん
76	「判定書」(公職追放関係書類)	1	昭和22年3月19日	個人
77	「追放指定に誤りのある者の特免申請について」(公職追放関係書類)	1	11月17日	個人

※令和7年3月編集